

兵 庫 医 科 大 学 同 窓 会



緑 樹 会 報



特集

こんなとこだよ、ささやま

2024.06.01

No. 84



緑樹会(RYOKUJUKAI)のシンボルマークは、頭文字「R」を「RYOKU(緑)」と「JU(樹)」2つのパーツに分けて、医学の守護神アスクレピオスの杖を表現しています。

今号の表紙



兵庫医科大学
ささやま医療センター

初夏の日差しと青い空の下で、水田には爽やかな風が渡っています。青々とした稲もグッと伸びてきて、篠山には夏の色が一日と濃くなっていきます。

写真と文:宮脇 淳志 (平成3年卒業)

CONTENTS No.84

GREETINGS

- 03 会長あいさつ
緑樹会会長 石蔵 礼一
- ささやま医療センター副院長からのメッセージ
兵庫医科大学ささやま医療センター 副院長 宮脇 淳志

FEATURES

- 04 特集1
丸茂 幹雄先生が
社会医学・予防医学部門
主任教授に就任されました
- 06 要職就任のご挨拶
- 08 特集2
こんなところだよ、ささやま
- 11 兵庫医大教授に就任された先生から緑樹会会員へメッセージ
- 14 准教授・講師就任のご挨拶
- 17 アスリートを支える
- 18 兵医のここを後輩に
- 20 新規開業医のご紹介
- 22 研修医たより
産官学連携日記
- 23 Pick up
地域医療を担う同窓生
- 26 支部会たより
- 29 同期会たより
第4期生同窓会開催のご案内
第1回兵庫医科大学ほぼ20期生同窓会開催のご案内
- 30 クラブOBたより
- 32 学会報告
医会案内
- 33 全国会参加報告
クラウドファンディングの結果報告とお礼
- 34 学生会員の皆さんへ
第118回医師国家試験の結果／総合型選抜「卒業生子女枠」
- 35 病院探訪
- 36 緑樹会からのお知らせ
総会案内／産業医学研修会案内／令和7年版名簿発行／掲示板
会員計報／事務局より／編集長コラム／編集後記／支部一覧

会

会長あいさつ



新年度のご挨拶

石蔵 礼一 (昭和57年卒業) | 緑樹会会長

木々の緑が色濃くなる時期となりました。緑樹会会員の皆様には、日頃より緑樹会活動、運営にご協力いただき感謝申し上げます。今年は新年早々に災害や事故が起こり大変な幕開けとなりました。被災地では復興作業もまだまだ続いています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りしております。

さて、私たち同窓生にとって喜ばしいニュースがありましたのでお伝えしたいと思います。

- ・令和6年卒業生(47期生)の医師国家試験の結果は好成績でした。
- ・兵庫医科大学病院病院長に、IBDセンター主任教授 池内浩基先生

(昭和62卒)が4月から就任されました。

- ・社会医学予防医学部門(前環境予防医学)教室には若林一郎主任教授(昭和57卒)の後任に同教室の丸茂幹雄先生(平成6卒)が就任されました。

すでに医学部長には、病理学講座の主任教授 廣田誠一先生(昭和59卒)が就任されています。同窓生は母校だけでなく医師会や他の医療施設、他大学医学部での教員としての活躍が見られます。同窓生として大変に喜ばしい事だと思います。こうした各方面で活躍する同窓生の声は緑樹会会報でお届けしてまいります。

COVID19感染症も2類から5類にな

り、緑樹会支部会、同期会、クラブOB会が開催されています。開催されていない皆様はこれを機会にぜひ5年ぶりに開催して、日頃のストレスを解消し同窓生同士の会話を楽しんでください。懐かしい話で親交を温め、同窓生の絆を深めてください。

4年後には兵庫医大1期生が卒業して50年が経ちます。これを記念して緑樹会創立50周年記念式典を企画しています。同窓生の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。最後に、同窓会は皆様の会費で維持、運営されています。会費納入により一層のご理解とご協力をお願いいたします。

さ

ささやま医療センター副院長からのメッセージ



ささやま医療センターのこと、あなたは本当に知っていますか？

宮脇 淳志 (平成3年卒業) | 兵庫医科大学ささやま医療センター 副院長

西宮の本院で「ささやま医療センターの実像を知っていますか？」と聞かれたら、みなさんどう答えますか？空気が綺麗でご飯がおいしいところ？冬は寒いところ？ICUも無い、カテ室もない貧弱な病院？本院の患者を送るには遠いけど篠山からは送ってくる面倒な施設？はたまた兵庫医大の不良債権(言い過ぎ?)などでは無いでしょうか。その実態は驚くほど本院の先生に認知されていないのではないか?と思います。確かに、設備は本院と比べてみるべきものは何もありません。篠山は西宮と違って建物が本院の1号館に比べれば綺麗なことから、至って普通の病院です。

しかし考えてみれば、大学病院や都市部の基幹病院を除けば最新の設備、充実した医療器具が揃っている施設は日本中を見渡してもそう多くはありません。特別ささやま医療センターが劣っているわけではないのです。

そして診療についてですが、総合診療科も整形外科もどちらも患者の訴えを診察室で聞いた後に臨床推論をたてながら所見を採って、検査をオーダーします。当たり前のことですが、意外と本院では出来ない事では無いでしょうか?(コンサルテーションの患者を除けば前医で診断がついているのでは?)そして診断がついて、

治療をしていくのですが、外来でも入院患者でも急性期から慢性期まで濃密で長いお付き合いになります。正に患者さんの生活、人生に伴走することになります。これは、一部の科を除けば大学病院では出来ない事です。そして医師として一度は経験が必要なことと思います。大学病院と違ったおそろく泥臭くて、でも医師の原点に立った医療を実践できる可能性を秘めた場所がささやま医療センターなのです。

将来開業や地域医療に携わる先生は当院で一度働いてみませんか。

丸茂 幹雄先生が 社会医学・予防医学部門 主任教授に就任されました

令和6年4月1日付けで丸茂 幹雄先生が社会医学・予防医学部門 主任教授に就任されましたことに伴い、今後の意気込みをインタビューでお伺いいたしました。

INTERVIEW

受け継ぎ、育み、培ってきたものを次世代に手渡すために

**臨床での知見を
バックグラウンドに、
一貫して血小板について研究**

——まず、現在の専門について教えてください。

大学院では血小板の基礎的な機能解析を研究テーマにしていました。今は主に、血小板カルシウムチャネルの基礎的な



インタビューー 橋本 昌樹（平成17年卒業）
兵庫医科大学病院 呼吸器外科 講師
緑樹会常任理事

研究として、抗酸化物質による血小板機能への影響について解析を進めています。大学院でも第二内科に所属、組織改変で血液内科となつての血栓止血グループでは血栓症や凝固異常症、血小板減少症などがターゲットとなる疾患でした。あの当時は、白血病に対しての治療成績は今ほど良くはなかったのですが、まだまだ力が及ばないことへの思いや、もっと患者さんを助けられたらという切実な願いを抱きながら、臨床をやっていたという日々でもありました。血液内科から2007年に環境予防医学の教室に移ってから慢性的に人が足りない状況から、外来でお手伝いをさせていただくこともあり、何らかの形で臨床にはずっと携わりながら仕事をしていました。臨床から離れていたのは、若林一郎先生（昭和57年卒業）の誘いを受けて2001年から2003年まで、国内留学の形で山形大学に移った1年半ほどの間です。

——高度な医療を行う上では欠くことのできない領域ですね。

内科の中の王道といえば、循環器・呼吸器・消化器です。同じ内科であっても血液内科は、結構マイナーだとぼやいていた同僚の先生がいましたが、そんなマイナーな中でも血栓止血はさらにマイナー



兵庫医科大学
社会医学・予防医学部門 主任教授
丸茂 幹雄（平成6年卒業）
医学博士

なんですね。ただ、内科分野全体を見渡してみると、血栓症はいろんなところの疾患と絡んできます。日本人の死因別死亡割合を見ても、第2位の心臓病と第4位の脳卒中では、血栓症や出血が問題となる事が多く、血液にまつわるトラブルに左右される疾患が案外多いのではと感じています。そういう意味では、内科の中でマイナーな存在ではあっても、視点を変えたと決してマイナーとは言えない、意義のある領域に携わっているのかもしれないというふうに考えたりもします。手前味噌でお恥ずかしいですが、今、高度な医療を患者様に提供する、実践するについては、欠くことのできない領域と言っておき、嬉しくも身に余る思いがします。

——前任の若林先生の存在も大きかったそうですね。

若林先生も第二内科のご出身で私と同じ血栓止血グループに所属しておられ、一

貫して動脈硬化の研究をされていました。私が大学院生になり研究テーマを考えるなかで論文を読み漁っているときに会ったのが、グラーツ大学留学時の先生が報告された論文でした。内容にすごく興味を持ちました。若林先生はどちらかというと血管の研究、対して私は血液のなかでも血小板の研究なのですが、自分がやりたい研究テーマとフィットする論文を見つけた嬉しさがありました。しかも自分がいた第二内科のご出身で兵庫医大の衛生学教室で教鞭をとっておられたということにも驚きました。山形大学から戻られた先生が、ここ兵庫医大で衛生学を「環境予防」という名前に変えて教室を立ち上げるということで誘っていただいたのですが、今、先生の後に続いて同じ兵庫医大卒業生の自分が、主任教授を務めることを嬉しく思っています。

**教育・研究・臨床それぞれで
課せられたタスクを
自分のものとして**

——基礎医学系講座の運営についてお聞かせください。

私自身、初めから基礎医学系の教室で仕事をしたり、研究を自分のライフワークとしていくことを考えていたわけではありませんでした。開業や病院勤務ということの方がイメージしやすく、将来身を立てていく道として考えている方はずっと多いと思います。臨床医学は基本的に人対人の仕事ですが、やはり医学は自然科学に基づいた学問分野の一つであり、治療一つにおいても科学的なエビデンスに基づいて行なっているわけです。そういう意味では、自然科学の素養がある程度求められます。それで言うと、研究に接する機会としての大学院は、一つのゲートウェイと言えると思います。研究の面白さをできるだけたくさんの人に伝えていくようにして、その中から興味を持ってくれる人が何人かこの世界にやってきてくれたらいいと考えています。



右：江川可純助教

今では、基礎配属や研究医コースといったものが医学部の学生が基礎研究の道に進む一つの道筋になってくれています。現に、江川可純先生（令和2年卒業）は基礎配属で来られた後、研究医コースに進まれて大学院へ、そして今では、教室の助教をやっているのです。ひとつのロールモデルかと思います。

——最後に、同窓生へのメッセージをお願いします。

「予防医学」というのは、ちょうど基礎医学と臨床医学との間に立つような分野であり、中間を担うことが我々社会学に携わる者の立ち位置であると考えています。「橋渡し」としての役割と言い換えるなら、開業医として、また市中病院でご活躍されている卒業生の方々から臨床での知見を教えていただきながら、自らの研究にフィードバックしていけるように努めていきたいと思っています。

教室運営で言えば、後につづく先生に充実した研究環境・教育環境でサポートすることが私の役割だと感じています。私自身、若林先生にいろいろ指導いただいて助けていただきました。そして、そのまま私の後に続く世代の先生方や学生にも伝えていく、それがもう一つの私の仕事でもあるように思っています。

病院長就任のご挨拶

池内 浩基（昭和62年卒業） 兵庫医科大学病院 病院長



この度、2024年4月1日付で阪上雅史前病院長の後任として兵庫医科大学病院の病院長に就任しました。外科としては岡本栄三先生、山村武平先生に続いて3人目。本学出身者として初めてとなります。この責任ある役割を拝命しましたことは、私自身にとって大変光栄であり、同時に当院が直面している課題の解決に対する強い責任感を感じております。兵庫医科大学病院の歴史を顧みますと、1972年4月に開設され、現在の主病棟である1号館は1973年8月に完成し、病床数も1,150床に増床されています。その後約50年にわたり、医療の最前線で優れた成果を上げてきました。現在の当院の病床数は963床で運用されており、2022年度の入院の延べ患者数は約27万5千人、外来の延べ患者数は約58万3千人、総手術数は9,672件の特定機能病院となっています。当院には41の標榜診療科とともに、がんセンター、放射線医療センターや私の主な診療領域である炎症性腸疾患センターなど29の中央診療施設があります。

私は、1987年4月に旧第二外科の宇都宮譲二教授の教室に入局しました。1992年4月に大学に帰学して以降は、兵庫医大で勤務してきましたので、勤続期間も30年を超えています。兵庫医大は消化器内科の下山 孝教授が炎症性腸疾患（IBD）を専門としていたことと、宇都譲二教授の開発された、大腸全摘術後も人工肛門とならない、大腸全摘・J型回腸囊肛門吻合術があったため、当時からIBDの患者さんが多く、私も2000年頃からはIBDの外科治

療を専門領域としてきました。内科も外科もIBD専門医が診療している病院が少ないため、症例数は順調に伸び、現在ではIBDの患者さんが日本で最も多い病院となりました。

阪上前病院長の5年間の大半は新型コロナウイルス感染症との戦いでした。特定機能病院である当院は感染症指定病院ではありませんが、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として大学病院としての機能を維持しつつ、入院患者さんの院内感染を最小限に抑え、外部から搬送される重症感染者に対するECMOや人工呼吸器を用いた治療も行ってきました。新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行しましたが、散発的な感染者は現在も発生しており、緊張感を維持しながら今後も診療を続けていかなければならないと思っています。

本学は開学50周年時に系列の兵庫医療大学と統合し、医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の4学部を擁する医療系総合大学として再出発しました。最先端の医療を提供するためには、優れたスタッフの育成も不可欠です。いよいよ今年度より医師の働き方改革が実行されます。医師の労働時間の短縮のためには医療スタッフへのタスクシフトも重要です。本学には他施設にも門戸を開いた特定行為認定看護師養成課程などもあり、

タスクシフトに必要なパラメディカルに対する教育も積極的に行っています。地域の医療機関の医師の働き方改革にも貢献したいと考えています。

建設後50年を経過した1号館はその役目を終えようとしています。2026年春の開院を目指して現在は阪神高速道路の北側に、15階建て842床の新病院棟を建設中です。新病院の完成により療養環境は現在よりも大幅に改善されます。私の任期中に新病院への移転も行われます。十分にシュミレーションを行い、安全な移転を成し遂げたいと思っています。

最後に、上記のような目標を達成するためには、病院を取り巻く全ての方々への支援と協力が不可欠です。医療スタッフ一人ひとりの献身的な努力、地域社会や関連機関との連携、そして何よりも患者様とご家族の理解が必要です。私は、職員一丸となり、兵庫医科大学病院をさらに発展させ、より多くの人々に貢献できる病院を目指していきたくと思っています。緑樹会の皆様のご理解とご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。



宝塚市立病院 病院長就任のご挨拶

岡田 敏弘（昭和63年卒業） 宝塚市立病院 病院長



この度、2024年4月1日付で宝塚市立病院 病院長を拝命するにあたり、緑樹会の皆様に御挨拶申し上げます。

＜外科医入門＞：1988（昭和63）年に本学を卒業し、硬式庭球部で培われた母校愛から「この医局なら他大学に決して負けない」という想いを抱き第1外科（岡本英三初代教授）に入局。連日の過酷な業務も良き先輩・同僚に助けられ、心身とも壊れることなく成長できました。

＜宝塚市立病院と腹腔鏡手術＞：研修を終えて1990年に宝塚市立病院に出向し、大橋秀一先生（外科主任部長）から薫陶を受けました。京都の泌尿器科系国際学会でフランスのProf. F.Duboisによる100例を超す腹腔鏡下胆嚢摘出術（ラパコレ）の発表を知るや、大橋先生は彼に手紙を書き手術器具の手配と簡単な手術手技書を手にいれます。1990年秋、自身も参加して本邦でも極めて早い時期に市立病院第1例目ラパコレ手術が成功しました。腹腔鏡手術のメリットは整容性だけじゃないの?と半信半疑でしたが、手術翌日からスタスタと歩く患者さんをみてスタッフ皆が驚愕したものです。Big surgeon big incisionの時代からMinimally invasive surgeryに変わる先駆けを体験した瞬間でした。その後、宝塚は内視鏡外科手術のメッカとなり1993年には第6回内視鏡下外科手術研究会（現在の日本内視鏡外科学会）を主催するに至りました。特別企画のライブ手術（腹腔鏡下経胆嚢管的総胆管採石手術）を卒後6年目の小職が術者となり質疑応答しながら完遂。うるさ

型の学会重鎮からもお褒めの言葉を頂きました。

＜腹腔鏡下肝切除＞：1994年大学に帰局。山中若樹先生（当時助教授、現明和病院理事長）とともに本邦1例目の肝S4の原発性肝癌・肝硬変（Z3）に対してマイクロ波前凝固による肝部分切除を経験。

＜2度目の宝塚市立病院＞：1999年より2度目の出向。大橋先生はすでに母校の大阪大学で内視鏡外科学の寄附講座教授として異動されており、折山毅先生（54年卒）の下で主任医長として従事。

＜大学帰局＞：2002年、藤元治朗主任教授（2000年就任）の下に助手（助教）として帰局。この時期に慈恵医大青戸病院泌尿器科手術の事故報道があり内視鏡外科手術に対する批判（不十分なトレーニングや術前説明不足）が沸き起こり、麻酔科主任教授・中央手術部部長の太城力良先生（現兵医大理事長）より内視鏡外科手術の院内規範や機器の整備を行うべくワーキンググループの設置を要請されました。第1外科は講座改変で2008年に肝胆膵外科となり、自身は脾温存脾体尾部切除術や総胆管拡張症手術などの膵・胆道領域手術を中心に担当。講師・医局長などを勤め藤元教授退官のあと18年間の大学勤務を終えました。

＜最後の御奉公＞：2020年1月より藤元先生、太城先生の推挙のもと3回目の宝塚市立病院外科勤務（診療部長・外科主任部長）を再任。同年より新型コロナウイルス感染症（Covid-19）に翻弄されつつ2023年副院長を経て現在

に至ります。

＜外科医30年を超えて＞：1988年外科入局当時、近未来には外科医は消滅しているかもと危惧する意見もありました。50歳までが外科の現役という一般論も、内視鏡外科の精緻な画質やロボット手術の手振れ防止機能が外科医寿命を延ばしてくれています。燕雀が想像し得ない医学の進歩・発展を実体験できました。

＜これからの宝塚市立病院＞：持続可能な地域医療提供体制を確保すべく総務省から公立病院経営強化ガイドラインが発出され、当院も経営強化プランを策定しこの中には新病院建設に向けたプロジェクトも含まれました。新型コロナウイルス感染症で存在意義が見直された感のある公立病院ですが新病院建設のハードルは低くはありません。職員の知恵と矜持を結集して対処したいと考えています。

＜稿を終えるにあたり＞：今回、お名前を挙げるこののできなかった多くの方々に支えられ助けられ、自身の人生が形成され感謝しております。緑樹会の皆様には、今後も引き続き叱咤激励を頂けますよう宜しく御願い申し上げます。



金田 好弘
(平成21年卒業)

中山 真美
(平成9年卒業)

柏 薫里
(平成13年卒業)

宮脇 淳志
(平成3年卒業)

石蔵 礼一
(昭和57年卒業)

片山 覚
(昭和54年卒業)

高橋 敬子
(平成1年卒業)

特集2 座談会

こんにちは、ささやま

～ささやまとともに四半世紀～

ささやま医療センターの始まりは1997年。

国立篠山病院を引き継ぎ、兵庫医科大学篠山病院として開設され、

2010年には現在の病院名へと改称し、移転開院。四半世紀を超える年月を、篠山と共に歩んできました。

そんなささやま医療センターの「今」を伝えるべく、座談会を企画しました。

日時 2024年5月18日(土) 13:00～16:00

場所 兵庫医科大学 アーカイブズ室(教育研究棟3F)

出席者 片山 覚(丹波篠山市医師会長、前ささやま医療センター病院長)

石蔵 礼一(神戸市立医療センター中央市民病院放射線診断科参事、緑樹会会長)

高橋 敬子(循環器内科准教授、ささやま医療センター応援医師、緑樹会常任理事)

宮脇 淳志(ささやま医療センター副院長、整形外科部長)

柏 薫里(臨床教育統括センター／整形外科学講師、前ささやま医療センター整形外科)

金田 好弘(ささやま医療センターリハビリテーション科医長)

インタビュアー 中山 真美(ささやま医療センター総合診療科、緑樹会理事)

先進的な取り組みに チャレンジする学生教育

中山: ささやま医療センターがどんな病院なのか、どんなことをしているのか、卒業生の皆さんに知っていただく機会になればと、今回の座談会を企画しました。特に学生教育、研修医教育、卒業生のキャリアパスをテーマにお話したいと思います。まずは学生教育について、現在のプログラムを作り上げた前院長の片山先生からお話いただけますか？

片山: 地域医療教育により一層力を入れるため、医学部5年生の病院実習を1週間から2週間に変更しました。プログラムの中心に置いたのは、臨床推論です。学生自身が1人のスタッフとして医療面接を行い、診断や治療方針を考えていく。そして、その症例から学んだことを最後にポートフォリオにまとめて発表するという内容です。

石蔵: 今は2週間の実習をされているんですね。私が学生の頃は、ささやまでは1泊2日の研修のみでしたから、多くのOBの先生方も現状をご存じないかもしれませんね。

中山: 片山先生はプログラムを考える際に、Longitudinal Integrated Clerkship (LIC)というアメリカ発の実習方法を参考にされたそうですね。

片山: はい。LICは長期的な統合型学習を意味します。地域医療において大切なのは、患者さんのナラティブに基づいた医療を行うこと。例えば生活習慣病の患者さんを指導しようと思ったら、時間をかけてコミュニケーションを取らないとわからないんですよ。本当は2週間でも短いくらいで、海外では5～10ヶ月のLICが行われています。アメリカやオーストラリアでは、LICは学習効果が高いというエビデンスも示されています。

中山: 医療と生活支援をどのように提供すれば、その人の人生にとってプラスになるのかを考える。高度医療機関ではなかなか学べないことですよね。ささやまには老人保健施設という生活の場も併設しているので、全人的医療の視点を持つトレーニングの一助になると思います。



研修医の主体性を 引き出す地域研修

中山: ささやまでは常に7～8人ほどの研修医を受け入れていますね。

柏: 兵庫医大の研修医の約7割は、ささやままで地域研修を行っています。研修医教育



柏: 片山先生が作られたプログラムは、集団で配置される研修ではなく、1人ずつ分けてスケジュールを組んでいることも大きな特徴ですね。1人ひとりにとっても丁寧に対応している実習だと感じます。

金田: 片山先生が作った土台をさらにアップデートして、今は整形外科やリハビリテーション科を見る時間も設けています。この教育を受けた学生さんが、研修医になって、専攻医、上級医になっていく中で、ささやままでの経験が良かったなと振り返って、もっと発展させたい、後輩にも伝えたいという人が出てきてくれると良いですね。

中山: 金田先生は多職種連携実習にも関わっていますね。

金田: 2022年度に兵庫医大が薬学部・看護学部・リハビリテーション学部を設置し、医系総合大学となったのを契機に、ささやままで多職種連携実習をスタートしました。他の職種の人たちと話し合いながら、患者中心の医療を一緒に作り上げるきっかけになっていると思います。

高橋: 2022年度に医学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂され、全人的医療、地域におけるプライマリ・ケア、多職種連携といった内容も盛り込まれていますよね。この内容をご存じの方でしたら、医療教育におけるささやまの価値がよくわかるはず。ささやまは兵庫医大が水平飛行するための重要な一翼なんです。

においてもささやまが担っている役割は非常に大きいです。

中山: 片山先生はどのような研修医教育を作られたのでしょうか。

片山: 研修医が「自分が主治医のつもり」で患者を診る経験をさせたいと思い、外来研修を始めました。ファーストタッチを研修医が担当し、入院が必要かどうか自分で判断し、他職種との調整も行います。もちろん入院の決定は指導医と相談しますが、自分で考えないといけないので、みんな必死に調べて勉強しますね。西宮とは違って、多様な患者を診るのがささやま。医師としての原点を体験できる場になっていると思います。

中山: 研修医が医療面接をするため、患者さんが来院するたびに担当が変わるのが一見デメリットのように思えますが、毎回「初めまして」だからこそ、すごく丁寧に話を聞くので、むしろ喜んでくださっている患者さんが多いと感じます。



石蔵: 研修医が自分で判断がつかないときは、どういう形で対応されていますか。

片山: ささやまでは、初診・再診・発熱の3つのプースから相談を受けるために、指導医を1人立てています。専任の指導医を置いて外来研修を行っている病院は、他ではなかなかないと思いますよ。

宮脇: 自分の頃と比べると、かなり手厚いですよね。昔は上級医が診察しているのを見て覚えて、自分で本を読んで勉強して、アルバイト先では見よう見まねでやってみるしかなかったですから。

開業前の学び直しや 臨床復帰の場に最適

中山: ささやまには兵庫医大の卒業生が多く在籍しています。卒業生のキャリアパスに、ささやまはどのように役立つと思われますか？

宮脇: 整形外科領域で言うと、変形性腰椎症、変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアといったコンディジーズは、ひと通り経験できますよね。

石蔵: 僕はそれ全部持っていますよ。

一同: (笑)

宮脇: 大学病院の医局にいたら、自分の専門分野だけを診ますが、ささやまでは首も腰も膝も股関節も手も、自分で診ないといけない。私は人工関節の手術が専門でしたが、ここでは何でも診るので、自分がこれまで弱かった範囲も経験できています。訪問診療に関する知識も身に付くので、これから開業する先生にとって、とても学びの多い環境ではないでしょうか。

片山: ささやまで1年間働いてから開業したら、すぐく力がつくはずですよ。ささやまに来る患者さんの多くは、まだ病気かどうかわからないし、逆にとんでもない病気が隠れている場合もある。そんな多様かつ不確実な患者さんに対して、プリコラージュ的に対応していく経験ができます。



ささやま医療センター 病院紹介

- 1997年: 国立篠山病院を引き継ぎ、兵庫医科大学篠山病院を開設。
- 1999年: リハビリテーションセンター、ささやま老人保健施設を開設。
- 2010年: 篠山病院から「ささやま医療センター」へと改称・移転開院。
- 2016年: ささやま居宅サービスセンターを開設。
- 2024年現在、180床（一般病床:92床/地域包括ケア病床:44床/回復期リハビリテーション病棟:44床）



学生研修医教育 2024年現在

- ・医学部5年生: 2週間の病院実習
- ・医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部: 1週間の多職種連携実習
- ・初期研修医: 2か月(1か月)地域医療研修



柏: 私は「教育が世界を変える」を信条としています。ささやまで学んだ学生や研修医が、10年先に世の中を変えるかもしれない。そう信じて一生懸命に教育することが、大学の発展にもつながるはずだと思います。

石蔵: 今日の座談会で、教育の場としてのささやまの価値がよくわかりました。また、教育だけでなく、OBがささやまに患者を送っているし、ささやまで頑張っているOBもいる。そういう意味でも貢献は大きいと思いますね。

宮脇: 私はささやまに来てちょうど2年ですが、整形外科以外のこともたくさん経験させてもらっています。1人の医師として成長する上で必要なものがささやまにはあると思いますね。OBの皆さんには「ささやまいとこ一度はおいで」と伝えたいです。

高橋: 私自身はささやまで働く1人として、大きな価値を見出しています。ここで働く人たちがもっと自らの価値を見出すこと、そしてその価値を伝える努力も必要だと思いますね。

金田: 教育面でも臨床面でも、ささやまが貢献している部分は大きいと思います。でも、貢献できることはもっとたくさんあるはずなので、今後のさらなる発展のために、リハビリテーション科としてもキャンパス全体としても、もっと発信していけるように頑張っていきたいです。

中山: この座談会がそのための第一歩になればと思います。本日はどうもありがとうございました。

兵庫医大教授に就任された先生から緑樹会会員へメッセージ

会員の皆様から安心して、 気軽にご紹介していただける診療科を目指して

舟木 壮一郎 | 兵庫医科大学医学部 呼吸器外科学 主任教授



この度、令和6年4月1日より呼吸器外科の主任教授を拝命致しました舟木壮一郎と申します。緑樹会の会員の皆様にご挨拶申し上げます。私は大阪出身で平成13年3月に大阪大学を卒業し、旧第一外科に入局しました。一連の外科研修を終えたのち、呼吸器外科医としての第一歩を踏み出したのが宝塚市立病院でありました。宝塚市立病院では胸腔鏡手術を数多く経験する機会に恵まれました。その後、赴任した大阪市立総合医療センターでは進行期肺癌の拡大手術から臨床試験を経験して参りました。平成19年に大学に帰局してからは肺癌だけでなく、縦隔腫瘍などの比較的稀な胸部悪性腫瘍や数多くの肺移植・心肺移植手術を経験して参りました。さらにそれらの技術を進行期の困難症例にも応用して参りました。

一方、研究面では、肺癌の血液中の循環癌細胞に注目したバイオマーカー研究や上皮間葉移行を介する悪性化のメカニ

ズム、さらに肺癌微小環境下での免疫チェックポイント蛋白の発現制御についての研究に従事して参りました。今後はこの知見をもとに胸膜中皮腫に対する研究にも応用させてまいります。

コロナ禍も一段落し、新しい日常を取り戻すにつれ手術症例も徐々に増加しております。また二年後には新病院開設も控えており、地域の医療ニーズに今まで以上に応えていく必要がございます。医局員もやる気に満ち優秀で頼もしい限りですが、問題は若手医師の外科希望者の減少です。外科の魅力を学生・若手医師にアピールしつつ、働き方改革にも配慮した労働環境の向上（医局運営）が不可欠と考えております。今までの経験をもとに診療、研究・教育に尽力するとともに会員の皆様方から信頼され、気軽にご紹介いただける診療科を目指して参ります。引き続きご支援ならびにご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

馬淵 誠士 | 兵庫医科大学医学部 産科婦人科学 主任教授



2024年4月1日付けで、兵庫医科大学医学部産科学婦人科学講座の主任教授を拝命いたしました。この度は、会報誌を通じて緑樹会の皆様にご挨拶をさせていただく機会を頂き、誠にありがとうございます。

私は和歌山県出身（和歌山市生まれ）で、平成9年に和歌山県立医科大学を卒業し、大阪大学の産科学婦人科学教室に入局いたしました。同附属病院および市立堺病院にて産科・婦人科の臨床研修を行った後、2000年に大学院に進学し、卵巣癌に関する研究を開始し、卒業後はFox Chase Cancer Center（Human Genetics部門）にてmTORを標的とした卵巣癌の分子標的治療、またカリフォルニア大学アーバイン校（婦人科腫瘍学教室：Disaia PJ教授）にて臨床研究に従事しました。2007年に帰国した後の16年間は、主に婦人科腫瘍医として診療・研究に従事してきました。研究では、臨床の現場で

遭遇した「腫瘍随伴性白血球増多」に興味を持ち、病態の解明と治療法の開発を行ってきました。診療では、低侵襲手術、子宮頸癌に対する妊孕性温存手術、また再発癌の救済手術に取り組んできました。自身が開発した後腹膜アプローチによる広汎子宮頸部全摘術、照射野内再発に対する救済手術、また全ての婦人科悪性腫瘍手術をロボット手術として提供できる診療体制を、“他施設にはない強み”として、阪神地域の医療機関にアピールし、大学病院の発展に尽力したいと考えています。

産科婦人科学教室は、1973年の開講以来、生殖医学の研究・診療のメッカとしてこの分野を牽引してきました。これからは、「婦人科腫瘍学」を二枚目の看板として、診療・研究・教育に取り組む所存です。緑樹会の先生方には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

朝倉 正紀 | 兵庫医科大学医学部 病態解析学 主任教授



2023年4月1日付けで兵庫医科大学病態解析学講座主任教授を拝命いたしました朝倉正紀と申します。この度は緑樹会の先生方にご挨拶をさせて頂く機会を賜り、誠にありがとうございます。

2016年から兵庫医科大学循環器内科にて診療・研究・教育を努めてまいりました。緑樹会の先生方にはいままで大変お世話になり、この場をお借りして、まず御礼申し上げます。

循環器内科で心不全診療を担当し、僧帽弁閉鎖不全症のカテーテル治療（マイトラクリップ）や慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）に対するカテーテル治療（BPA）などの先端技術の導入を進めてまいりました。研究では、心不全診療における尿中アルブミン値測定の有用性を検討しております。また負荷時の酸素飽和度測定を心不全診療へ応用すべく、村田製作所と共同で研究を進めております。

この度、臨床検査医学講座から発展した講座として設置され

ました病態解析学講座を担当させていただくこととなりました。臨床検査部門は病院の重要な機能であり、兵庫医科大学において円滑な診療が進むように裏方として尽力してまいります。また内科診断学の教育も新たに求められており、診療科横断的な学生教育も担って参ります。兵庫医科大学に赴任する前に在籍しておりました国立循環器病研究センター臨床研究センターで研究支援業務を担っていた経験から、本学の臨床研究支援センター（CCRED）のセンター長として、本学の臨床研究発展に今後も尽力させていただきます。さらに石原正治主任教授のご厚意により、循環器内科の心不全診療も従来通り継続させていただく予定でございます。ぜひ弁膜症や心不全の患者様をご紹介賜れば幸いに存じます。

今までの経験を活かして、さらに兵庫医科大学に尽力してまいります。緑樹会の先生方には今後ともご指導、ご助言のほど、よろしくお願い申し上げます。

次世代の医療人・医学者の育成にあたって

齊藤 寿郎 | 兵庫医科大学医学部 生理学（生体機能部門） 主任教授



2024年4月1日付けで兵庫医科大学医学部生理学講座（生体機能部門）の主任教授を拝命致しました、齊藤寿郎と申します。緑樹会の皆様に御挨拶する機会を頂き、深く感謝申し上げます。

私は大分県の生まれで2004年に九州大学を卒業し、虎の門病院で臨床研修を修了後、九州大学・米国Rutgers大学・山口大学・和歌山県立医科大学と各地を転々として教育・研究・診療の研鑽を積みました。専門は循環器内科で、同領域の生理学/分子生物学を中心に教育・研究に従事しています。

着任以来、兵庫医科大学の様々な取り組みを目の当たりにして深い感銘を受けています。教育・研究・診療のいずれも高いレベルにあり、「病気やケガを治すだけでなく、人々に勇気や希望を与え、生きるパワーを湧き出させることを目指す」というスローガンに強く共感します。過去に在籍した大学と無意識に比較してしまいましたが、本学の優位性は際立っており、素晴らしい施設の一員になれたことを心から感謝しております。浅学菲才の若輩ですが、本学の発展に僅かでも貢献できるような全力を尽くす所存です。

特に次世代の人材育成が私にとって重要なタスクだと認識しています。私は学生時代にCBT・OSCE・臨床研修マッチングを経験しました。学部学生に生理学を教える過程で経験を活かし、臨床医学の基盤形成、医師国家試験への早期対応に取り組みます。

また、コロナ渦や欧州情勢の変動を経験した現代に於いて、未知なる困難に対応できる人材が真に必要とされます。如何なる環境下でも問題解決能力を発揮し、即興性に優れ、対外的な協力関係を構築できる医療人を輩出できるよう努力します。基礎医学に重要な「現場から未解決問題を抽出して課題を設定し、解決した内容を外国語で分かり易く発信する」という作業は容易ではありません。しかしこの過程こそ先述の人材育成にとって最良のトレーニングと考えます。学部学生および大学院生の教育を通じて「一流の臨床医であり且つ、良き医学者」の育成に尽力します。

甚だ未熟者ですが精進を重ねますので、緑樹会の皆様におかれましては何卒ご指導の程お願い申し上げます。

兵庫医科大学にデータサイエンス部門が設置されました

森本 剛 | 兵庫医科大学医学部 社会医学データサイエンス部門 主任教授



2024年4月1日付けで、兵庫医科大学基礎医学系講座に社会医学データサイエンス部門が設置され、主任教授として担当させて頂くことになりました。改めて緑樹会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は1995年に京都大学医学部を卒業し、京都大学に新設されたばかりの総合診療部の第1期生として入局し、すぐに当時米国招聘教授による総合内科教育で有名であった市立舞鶴市民病院内科に赴任し、3年間の研修を行いました。その後、臓器別専門科が揃った国立京都病院（京都医療センター）総合内科に勤務し、総合内科専門医、プライマリケア認定医などを取得しましたが、総合診療医は臓器別専門医と比べてアカデミックなバックグラウンドが弱いため、大学院はハーバード大学公衆衛生大学院臨床疫学専攻に入学し、疫学や統計学、また公衆衛生学や国際保健などを修めました。

帰国後は、所属していた総合診療科がなくなったこともあり、医学教育推進センターに職を得て、医学教育の実務を担当す

る傍ら、米国で培ってきた臨床研究手法の教育を広く学内外で展開することとなりました。総合診療医が背景ということもあって、あらゆる領域の臨床研究を専門医と一緒に展開することができ、多彩な手法（RCT、コホート研究、横断研究、メタ解析、費用効果分析、など）を用いたエビデンスを発表してきました。2014年より縁あって兵庫医科大学で臨床疫学を担当することとなりました。

兵庫医科大学 社会医学データサイエンス部門は基礎医学系講座に分類されますが、集う研究者や研究テーマは臨床そのものです。日常診療から生まれる疑問から研究テーマへの変換、系統的なデータ収集、適切なデータマネジメント、堅牢な分析、臨床の文脈で解釈可能な指標への転換、国際舞台での発信。そんな臨床研究の醍醐味を緑樹会の皆様と一緒に味わうことができるよう、引き続き教室及び大学の発展に貢献して参ります。先生方のご指導、ご鞭撻を頂戴できれば幸いです。

准教授就任のご挨拶

寺嶋 真理子（平成9年卒業） | 兵庫医科大学医学部 次世代型救急災害医療学（寄附講座）特任准教授



H3兵庫医大入学から、H9第二外科入局、H17救急科にトレード、H30 年京都医療センターへ移動、救命救急センター長を経て、約30年間兵庫医大に人として医師として育てて頂きましたご恩を返すべく、次世代型救急災害医療学講座特任准教授として帰ってきました。救急医療界は今、高齢化による患者層や疾患の変化、コロナ後、医師の偏在、働き方改革、DXの推進など、劇的変革の真っただ中です。当講座の目的は「DX推進」と「地域医療と救急の連携システムの強化」の二本柱

ですが、臨床あつてのシステムと考えています。また、救急・集中治療領域では患者の個人差が大きすぎてITでは対応不可能な所が多くあります。「人が人を診る診療」をしっかりと後輩に伝えつつ、これまでの経験を活かし、救急災害医学講座をより魅力的にしていってお手伝いをしたいと思います。「わくわくし続けたい!日々学び!」院内他科、近隣医療機関の先生方のお力添えをぜひよろしくお願い申し上げます。

准教授就任のご挨拶

富士原 将之（平成10年卒業） | 兵庫医科大学医学部 放射線医学 准教授



令和6年3月1日付けで、放射線医学講座准教授を拝命しました富士原将之と申します。
私は、平成10年に本学を卒業後、放射線科に入局し、放射線治療に関する診療に携わってまいりました。関連病院での放射線治療施設の立ち上げのために大学を離れた2年3か月以外の期間すべてを大学で勤務するという稀な経歴をたどっております。
放射線治療は治療装置の技術革新が進み、強度変調放射

線治療・定位放射線治療といった高精度放射線治療や小線源治療が定着し、低侵襲治療として根治照射から緩和照射までがん治療の中で重要な役割を担っております。放射線治療に携わりながら、がん診療に携わる多くの診療科の先生方や同窓会の先生方に支えられていることを日々感じております。今後も放射線治療についての診療・研究を継続し、本学の発展のために尽力してまいります所存であります。今後ともご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

准教授就任のご挨拶

中山 寛（平成14年卒業） | 兵庫医科大学医学部 整形外科 准教授



緑樹会会員の皆様、平成14年卒の兵庫医大整形外科教室の中山寛と申します。
私は兵庫医科大学を22年前の平成14年に卒業しました。妻は兵庫医大の同級生です。バレーボール部の先輩でもありますが、現在の当科の主任教授である橘俊哉先生に私が大学6年の時に言われた言葉が今も鮮明に残っております。「兵庫医大を盛り上げるのは兵庫医大生しかいない。国立、私立関係ない。がんばるかどうかだけや」と。その言葉を胸に母校の整形外科に入局を決めました。以後、22年間のうち、海外留学と3年間の関連病院での勤務以外は、大学院も含め、母校の整形外科で過ごしてまいりました。

母校を盛り上げるためには卒業生に兵庫医大に残ってもらうことが近道であると考えます。兵庫医大に残れば魅力ある研究ができる、臨床ができるという点をアピールしていきたいと考えております。母校の整形外科に入局し、22年間、大学院、大学病院で過ごした自分だからこそ伝えられる魅力、橘教授からつないで頂いた想いを後輩に伝えていくことが私の教育の理念の本幹です。最後になりましたが、緑樹会の先生方には今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床講師就任のご挨拶

中村 久美子（平成22年卒業） | 兵庫医科大学医学部 健康医療学 臨床講師



2023年11月より兵庫医科大学 健康医療学の臨床講師を拝命いたしました。私は2010年に本学を卒業し、本院での臨床研修を経て、2012年に消化器内科（当時の上部消化管科）に入局しました。入局後は、本院や関連施設にて研鑽を積んでまいりました。
現在、健康医療学の一員として、2022年10月に開院しました梅田健康医学クリニックに携わらせていただいております。こちらでは、人間ドックや健診だけでなく、消化器内科をはじめとする様々な診療科の先生が外来を行っております。AIを搭載した内視鏡機器、MRI、CTなど最新鋭の機器を取り揃え、自施設で精度の高い検査を実施することができます。本院と連携を図り、予防医療から診断・治療までシームレスかつ一貫した医療を提供することを目標としております。
今まで培ってきた経験と知識をもとに、本学の発展に微力ながらも貢献できればと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

めとする様々な診療科の先生が外来を行っております。AIを搭載した内視鏡機器、MRI、CTなど最新鋭の機器を取り揃え、自施設で精度の高い検査を実施することができます。本院と連携を図り、予防医療から診断・治療までシームレスかつ一貫した医療を提供することを目標としております。
今まで培ってきた経験と知識をもとに、本学の発展に微力ながらも貢献できればと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

講師就任のご挨拶

河合 健志（平成18年卒業） | 兵庫医科大学医学部 循環器・腎透析内科学（循環器内科）講師



2024年4月1日より循環器・腎透析内科学講座の講師を拝命いたしました。2006年に兵庫医科大学を卒業し、これまで主に虚血性心疾患を中心とした血管内治療を専門とする診療に従事してまいりました。また2020年からの4年間は、米国のCVPPath Instituteにおいて、心臓血管病理や新たな血管内治療デバイスの評価といった研究に携わる機会をいただくことができました。医療における治療法の進化は日進月歩であり、治療デバイスの進化にも乗り遅れることなく知識を刷新していく

ことが必要であります。これまでに培った知識や経験を現場に還元するとともに、研究領域にも活かしていこうと考えています。母校の発展に貢献できるよう、また教育・臨床・研究の三本柱である大学機関の職員としての任務をバランスよく遂行できるよう、微力ではありますが努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

菅原 政貴（平成20年卒業） | 兵庫医科大学医学部 循環器・腎透析内科学（循環器内科）講師



2024年4月に兵庫医科大学 循環器・腎透析内科学講座の講師（地域総合医療学 兼任）を拝命いたしました。私は2008年に本学を卒業後、2012年に本学循環器内科学講座に入局いたしました。主に心エコー図法による心不全の病態解明をテーマに診療・研究活動をしてきました。途中、米国 ピッツバーグ大学での留学などを経て2022年に帰局いたしました。この度、ささやま医療センターでの活動の場を与えていただくことになり、厚く感謝を申し上げます。丹波篠山市は65歳以上の高齢者

人口比率は2020年の時点では約35%で、2040年の全国高齢者人口比率予想と同程度です。循環器疾患は高齢になればなるほど有病率が高く、心臓以外の併存症も多いです。そのため日本の未来を見るこの地域で全人的な循環器診療を展開できるよう献身する所存です。そのためには本学・同門の先生方をはじめ、あらゆる方を師と仰ぎ、ご指導・ご鞭撻を賜りたく存じます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

講師就任のご挨拶

井石 智也（平成21年卒業） | 兵庫医科大学医学部 整形外科 講師



この度、令和6年4月1日付けで兵庫医科大学整形外科講座講師を拝命いたしました井石智也です。私は2009年に本学を卒業し、初期研修の後に整形外科教室に入局しました。その後は市立小野市民病院や明和病院などの関連病院での勤務を経て、2014年からは本院に戻り、膝関節疾患の臨床に従事しております。また、2016年から2019年にはピッツバーグ大学の細胞分子工学センターにて基礎研究を学び、間葉系幹細胞を用いた関節軟骨再生の研究で学位を取得しました。膝

痛に悩まされる患者様は、若年のスポーツアスリートから中高齢の方まで数多くおられます。それぞれの患者様にあったベストな治療法を提供できるように精進して参ります。また、研究、教育においては微力ながら大学の発展に積極的に寄与したく存じます。今後ともご指導ご鞭撻ほど、何卒宜しくお願い致します。

講師就任のご挨拶

武田 悠（平成21年卒業） | 兵庫医科大学医学部 整形外科 臨床講師



令和6年4月1日より兵庫医科大学整形外科講座の臨床講師を拝命いたしました。平成21年に本学を卒業し、近畿中央病院での初期研修を経て、整形外科講座に入局いたしました。本院、医誠会病院を経て、平成26年に大学院に進学し、人工股関節置換術におけるイメージレスナビゲーションの設置精度についての研究を報告し、学位を取得しております。学位取得後、Queensland University of Technologyに2年間留学し、人工股関節のバイオメカニクス研究を行ってきました。令和4年より本院で股関節外来を担当させていただいています。現在当院ではナビゲー

ションを使用した人工股関節置換術を中心に、骨切り術、股関節鏡手術を行っています。特に、人工股関節置換術では、ナビゲーションによる正確で安全な手術に取り組んでいます。また、術後疼痛の軽減、早期社会復帰を目標にMinimally invasive Surgery (MIS) アプローチを取り入れており、手術後の患者さんの満足度向上の一助になればと考えております。今後も股関節疾患の臨床研究やバイオメカニクス研究、後進の指導に努めていく所存であります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

上田 友子（平成25年卒業） | 兵庫医科大学医学部 産科婦人科学 臨床講師



この度令和6年4月に兵庫医科大学医学部産科婦人科学講座の臨床講師を拝命いたしました。私は平成25年に本学を卒業し、初期研修を終え、本学産科婦人科学講座に入局いたしました。後期研修で近畿中央病院に勤務したのちに、以後現在まで本学で勤務しております。学生時代は内科志望でしたが、紆余曲折を経て、がん診療に携わりたいと考えるようになり、今の産婦人科を選択致しました。入局後も気持ちはぶれることなく、現在は婦人科腫瘍を中心に診療しています。当科は

本年4月から馬淵教授が就任され、奇しくも専門が腫瘍です。この原稿を作成している現在は、新体制になってまだ間もないですが、これまでチャレンジできなかった再発腫瘍への手術や、悪性疾患への内視鏡手術の実施の拡大など新たな知見に触れる事ができ、日々刺激的です。新たな環境に身を置きながら、少しでも本学に貢献していきたいと考えております。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いしたいと存じます。

チームドクターとして なでしこリーグ『ASハリマアルビオン』を支える

宇野津 雅哉（平成5年卒業） | 宇野津整形外科医院 院長

今回チームドクターとして執筆の機会を頂き有難うございます。

思えばサッカーとの縁は亡き父が無類のサッカー好きで姫路で少年サッカーチームを立ち上げ、私もチームに属したことにありました。

兵庫医大を卒業するまで特に携わることはありませんでしたが、整形外科入局時はJリーグの活動が活発になり、大学病院医局もガンバ大阪のサポートを手の外科の先生方が中心にサポートされるようになっていました。

整形外科に入局た頃、Jリーグをはじめとした様々なスポーツが盛んになりスポーツ医学の重要性の認知が高まりました、整形外科医が運動器の疾患管理する上で日常生活の復帰が目標としていた昔の風潮から更にアスリートの競技復帰に主眼を置くようになりました。

スポーツをサポートするということは治療に携われれば、単に損傷した身体を治せばいいいいというわけではなく、スポーツ選手という人間には一人一人その競技において、地方大会、予選、代表者選考、全国大会、世界大会という期間が決まっている時期にパフォーマンスを最高に保つ必要があり、早く治して早く現場に復帰させるためにどのような治療を選択するか見極める必要があります。

日常診療では趣味や学校のクラブ活動でのスポーツ障害や外傷からの復帰に携わる機会は多くあり、多くの症例では一般的なエビデンスに沿った治療にて復帰を目指した治療を行ってきました。

スポーツ支援活動として姫路市サッカー協会の委員、姫路市医師会スポー

ツ医学委員会における社会的にも救護などで活動してました。

姫路でなでしこサッカーリーグのASハリマアルビオンが誕生して数年前よりサブドクターとして数人の選手の怪我の診療に携わってきましたが、昨年末にメインドクターの打診があり、力添えになればと快諾させていただきました。

ASハリマアルビオンは昨年まで2部リーグでしたが、昨年の活躍により1部リーグに昇格しました、昇格と共にチームドクターをメインで依頼され、チームドクターとしてどういった事をすればいいのかと引き受けた後不安に過していましたが、チームドクターとしてはSNSのLINEグループを利用して選手の怪我の報告を受けた後、最善の初期対応と重症度に応じ、最適な治療ができる医療機関とドクターの紹介（昨年は西宮回生病院の森本先生にも選手がお世話になりました）、回復期のリハビリやトレーニングにおける注意点の指導、復帰の時期などを試合のスケジュールを見ながら調整するなどトレーナーや監督と相談して指示しています。

なでしこサッカーリーグでのサポートは殆どがプレー中の怪我（足関節や足

の怪我や痛み、肉離れ等）ですが、精神的なサポートや栄養管理、全身的にも女性アスリート特有のスポーツ障害にも対処す

べく婦人科の先生や栄養士のサポートも欠かせないので、複数の専門家による総合的なサポートをおこなっています。

メインドクターの仕事としてホームゲーム（地元開催）での救護出務で観客の救護や試合中の怪我は敵味方関係なく中立の立場で対処をしています。

医師になって30年近くなりますがチームドクターとして今更ながら思うところは、選手にとって最善な医療のサポートを提供するという事は、多職種連携して新しい知識をもった若い先生方の治療の力も必要であると考えます。

今後色々な分野においても多職種連携が必須となるうえで看護学、薬学、リハビリテーション学を中心とした医療専門職の教育には益々期待されます。

わが母校の発展をととても楽しみにしております。



マッチドクターとして



ハリマアルビオン小野鈴香監督と



アルビオンのトレーナー達

次世代の緑樹会会員の御活躍を祈念して

松井 聖（昭和58年卒業） | 兵庫医科大学医学部 糖尿病内分泌・免疫内科学 教授



兵庫医科大学を1983年（昭和58年）に卒業し旧第3内科に入局しました。大学院で免疫の研究を始めたことから免疫の進歩とともに41年間歩んできました。その間、大学は2度の講座再編があり、2002年は細分化でリウマチ・膠原病科に、2018年は統合で糖尿病内分泌・免疫内科学講座に在籍することとなりました。いつも、当事者として移動を余儀なくされました。その度に、新しい仲間と新しい仕事ができると期待して新しい居場所に移りました。大学院時代にクローニングされたサイトカイン（IL-4, IL-5, IL-6）が、今では臨床応用され生物学的製剤として治療に使えるようになっていきます。大学院・留学時代は基礎免疫を研究し、帰国後は阪神淡路大震災後に、IL-18のクローニングとIL-18の作用機序の解明がテーマとなり、兵庫医大発のIL-18の研究に従事することができました。臨床はリウマチ性疾患やアレルギー性疾患を患う患者様の診療に従

事してきました。2014年に臨床教授に就任し10年、2018年よりアレルギー・リウマチ内科の診療部長に就任し6年間を過ごしました。アレルギー・リウマチ内科の診療部長時代はコロナ対策が中心に診療を続けておりました。この間、緑樹会会員の先生方には病病・病診連携、医師会活動、国保審査等で色々とお世話になりました。皆様の御協力のお陰で定年まで全うすることができました。有り難うございました。

これからの未来は、若い世代の緑樹会会員の皆様の益々の御発展と兵庫医科大学の発展を祈念して、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

退職のご挨拶

駄谷 博之（昭和58年卒業） | 兵庫医科大学医学部 整形外科 教授



私は幼稚園から大学まで西宮を離れたことがなく、生粋の「宮っ子」です。1983年に兵庫医科大学を卒業後は母校の整形外科に入局、そして41年間地域医療に貢献して無事退職することになりました。

当初の専門領域は膝関節炎でした。1993年から米国に留学、1996年帰国直後に大きな機転が訪れました。専門を膝関節疾患から骨・軟部腫瘍に変わることとなったのです。39歳から馴染みのない領域に飛び込む不安もありましたが、「学びに遅すぎることはない」の気概で始めました。期せずして若者を襲う不治の病としてドラマでも取り上げられることの多い骨肉腫治療に、画期的な進歩がありました。術前化学療法の導入で10人中7人が助かるようになり、切断をしないで脚を残す患肢温存術が開発されました。しかし、悲惨な経過を辿る10人中3人の治療、未熟な小児に対する患肢温存術後合併症の克服など、

残された多くの課題がありました。これらの課題に対して、西宮から世界に向けて多くの成果を発信できました。何事も始めるのに遅すぎることはないことを実感しています。大学病院では臨床、研究、教育の3本柱の充実が求められます。私はその全てが好きでした。学生教育では4回のベストティーチャー賞をいただき、最多受賞者に選ばれました。バスケット部の顧問として、学生達と貴重な時を過ごすこともできました。そして、覚悟はしていましたが、いざ退職する日が来ると寂しい思いでいっぱいです。

今後、お世話になった母校と緑樹会に恩返しをするために、特任理事として後進の育成に尽力いたします。最後になりましたが、緑樹会の皆様には、色々とお支えていただき、本当にありがとうございました。

兵庫医科大学の退職をむかえて

武田 正中（昭和59年卒業） | 兵庫医科大学医学部 脳神経内科学 教授



兵庫医科大学に勤務して40年たち定年退職を迎えることになりました。1978年に兵庫医科大学に入学した当時は第二期生が卒業したばかりの新設大学でした。私が卒業する1984年から医師国家試験は年2回から1回になりました。開学52年たった今、立派な新教育棟で素晴らしい教育を受け国家試験合格率が100%近くになり、診療・研究とともにすべてが大変な発展を遂げました。本学卒業後すぐに第5内科に入局し神経内科を選びました。神経変性疾患、末梢神経疾患や認知症診療に従事してきました。2021年からは認知症疾患医療センター長および西宮市認知症早期発見対応推進検討会副会長を拝命しました。微力ながら西宮市の認知症診療のお役に立てたと思います。そして、いよいよ「認知症診療の夜明け」というべき時代がきました。アルツハイマー病に対する抗アミロイド薬が保険適応となり、2024年3月兵庫医科大学病院での抗アミロイド

治療が始まりました。この幕開けの時代を大学で迎えられたことは幸せでした。

緑樹会では学術担当を拝命し、緑樹会学術セミナーを開催しました。年2回程度で現地開催をしていましたが、コロナ禍で中断を余儀なくされました。それでも第14回まで開催することが出来ました。緑樹会学術セミナーは兵庫医科大学の卒業生が様々な分野で活躍していることをお話しいただき、若い先生のモチベーションアップに繋げることを目標としていました。講師の先生方のおかげで、魅力あるセミナーを開催することができたと感謝しております。

最後になりましたが、緑樹会の皆様には、母校と本学学生を支えていただきありがとうございます。兵庫医科大学と緑樹会の益々のご発展を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。



2024年3月11日 退職記念講演会

「よしむらペインクリニック」開院のご報告

吉村 文貴（平成15年卒業） | よしむらペインクリニック 院長



令和5年2月開業
よしむらペインクリニック
診療科目 ペインクリニック内科・麻酔科
所在地 岐阜県岐阜市本荘西4-64
TEL 058-255-2660
URL <https://www.yoshimura-pain.jp/>

令和5年2月に岐阜市で「よしむらペインクリニック」を開院しました。兵庫医科大学を卒業後、兵庫医科大学病院麻酔科で疼痛管理の基礎を学び、岐阜大学医学部附属病院麻酔科疼痛治療科で「痛みの治療」を専門として研鑽を積みました。

医師として、痛みで悩んでいる人を笑顔にすることをテーマに臨床および研究を行ってまいりました。これからも兵庫医科大学病院の理念「安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献する」をもとに、これまでの経験を活かして、専門的なペインクリニック治療を提供し、地域の皆さまが痛みから解放され、健康で笑顔になれるク

リニックを目指します。

痛みの治療には地域の医療機関との連携が大切であると考えています。当クリニックのロゴには雪の妖精とも呼ばれている「シマエナガ」をモチーフとして、地域連携・笑顔を表現しました。

人事や経営面などこれまで経験したことがないことも多く、毎日手探りの状態ですが、周囲の支えでなんとか開院1年を迎えることができました。これからも街の診療所として痛みをもつ患者に頼りにされる存在になるよう努力していきます。

末筆ながら、緑樹会のより一層のご隆盛を祈念いたします。

宝塚市仁川に「星空こども・アレルギークリニック」を開院

塚本 容子（平成11年卒業） | 星空こども・アレルギークリニック 院長



令和5年9月開業
星空こども・アレルギークリニック
診療科目 小児科・アレルギー科
所在地 兵庫県宝塚市仁川北2丁目5-1
さらら仁川北館1階1-101
TEL 0798-51-0375
URL <https://hoshizora-kodomo.com/clinic/>

昨年9月に宝塚市仁川駅前に、「星空こども・アレルギークリニック」を小児科アレルギー科標榜で開業致しました。平成11年度卒業の塚本容子です。

当院では、一般小児科や予防接種以外に、専門であるアレルギー診療に力を入れています。児童精神科で発達外来を担当していることもあり発達相談にも対応しています。今までの経験を生かして、地域の子どもの健康と健やかな成長を総合的にサポートしていきたいと思っています。

卒業後は母校には残らず、長年東京に住んでいましたので、緑樹会とは疎遠になっていたのですが、20数年ぶりに関わら

ず同級生や先輩後輩の先生方には開業相談に乗っていただいたり、開院祝いに来て下さったりしました。また、兵庫医科大学小児科には患者さんを紹介させて頂いており、大変お世話になっております。宝塚市医師会では、免疫学名誉教授の中西憲司先生を初め多くの緑樹会の先生方と交流する事ができ、宝塚で開業できて良かったと思っています。これからもよろしくお願い致します。

開業のご挨拶

勝野 朋幸（平成9年卒業） | 夙川 勝野内科クリニック 院長



令和5年10月開業
夙川 勝野内科クリニック
診療科目 糖尿病・一般内科
所在地 西宮市羽衣町7-30
夙川グリーンタウン内
夙川駅前イズミメディカルモール 1階
TEL 0798-56-8080
URL <https://katsuno-clinic.jp/>

皆様こんにちは。平成9年度卒業の勝野朋幸と申します。昨年10月より阪急夙川駅前で開業致しました。兵庫医科大学では、糖尿病内分泌・免疫内科学講座に所属させて頂き、20年以上も勤務させて頂きました。ここ数年思うことあり、小生でも地域に貢献できる可能性のあるクリニックで医療に従事するという選択に至りました。不慣れなことも多く、諸先生方にご迷惑をおかけすることも多いかと思います。何卒ご指導のほどよろしく願いたします。

大学病院の外来では当たり前のように常に複数名の患者さんの紹介があり、再診の患者さんを含めてどうやったら患者さ

んの待ち時間や数を減らせるだろうなどと悩んでおりましたが、今となっては、患者さんにどうやったら来てもらえるかを考える毎日となりました。また、専門は糖尿病になるのですが、糖尿病患者さんはひと月に1人・2人来ていただけるかどうか、という感じですので、もし糖尿病治療で難渋している患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただけましたら幸いです。最後に緑樹会と兵庫医科大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

阪急芦屋川駅前に『芦屋まつおクリニック』を開院

松尾 俊宏（平成18年卒業） | 芦屋まつおクリニック 院長



令和6年2月開業
芦屋まつおクリニック
診療科目 内科・糖尿病内科・内分泌内科
所在地 〒659-0083 芦屋市西山町11-8 CH.158 201号
TEL 0797-32-5070
URL <https://a-matsuo.jp/>

2024年2月に阪急芦屋川駅前で『芦屋まつおクリニック』を開院いたしました松尾俊宏と申します。平成18年卒業で空手部、写真部に所属していました。卒業後、糖尿病内科（現・糖尿病内分泌・免疫内科学）に入局、大学病院では糖尿病の最先端医療や肥満外科治療に関わらせて頂き、多くを学ばせていただきました。市立芦屋病院は研修医時代から深く関わっていた場所であり、芦屋で開業するきっかけになった病院です。

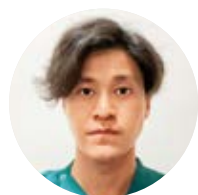
開院前の苦しい時には、大学の同級生、先輩、後輩からサポート頂き、何とか開業することができ、開業後も、兵庫医大出身

の開業医の先輩方にも助けてもらい、大学でのつながりの大切さを再認識しております。

クリニックでは、一般内科・糖尿病・内分泌内科を行っています。肥満外科手術で培った知識を生かし肥満外来にも力を入れていく予定です。大学勤務時代、疾患だけ診るのではなく、患者さんの人生（生活習慣・仕事・趣味・家族背景・病気など）を診るようにと日々指導を受けていました。開業後もその精神を忘れずに、地域に根付いた信頼されるクリニックになるように、尽力していく次第です。

医療現場での学びと挑戦

伊達 和則（令和5年卒業） | 神戸市立医療センター中央市民病院 研修医



春陽の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年3月に兵庫医科大学を卒業し、早いものでもう1年が経ちました。

私は初期研修医期間は医師としての知識・手技の基盤を構築する上で様々な症例を経験したいという思いがありました。また、私は神戸市で生まれ育ち、20年以上の時を過ごしてきたこともあり、神戸市の地域医療・救急医療に貢献したいという思いから神戸市立医療センター中央市民病院での初期研修医としてスタートすることを選択しました。当院は三次救急病院で救命救急センターに力を入れており、救急科ロー

ーションや普段の当直等で全症例研修医がファーストタッチし初療対応・治療介入・dispositionを選定していきます。入職して間もない頃は右も左も分からず、本当にこの病院で医師としての第一歩を踏み出してゆけるのだろうかという不安で一杯でした。不器用ながらも「朝目覚めた時より何か1つでも学びを得る」を意識してがむしゃらに1年間走り切り、今では三次救急症例でも少しは貢献できるようになったのではないかと思う反面、もっと努力すべきだったと後悔・焦る気持ちが胸に混在しています。

この1年を振り返ってみると、色々な人と関わり、様々な考え方・価値観

を実感しました。研修医同期・先輩をはじめ、多くの上級医の先生方に相談しご指導していただき、学生時代に学んだ検査・治療をただ行うのではなく、実臨床の場においては様々な背景要素が加わり、患者さんの意思・希望に沿って他のコメディカルスタッフの方と協力してチーム医療を行う必要があることを再確認しました。

残りの研修医期間も同期とともに切磋琢磨・自己研鑽に励み、いつか母校である兵庫医科大学に恩返しできるように努めてまいります。

陽春のみぎり、皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

産官学連携日記

ポラリス産官学連携日記

森 剛士（平成8年卒業） | （株）ポラリス代表取締役、（医社）オーロラ会 森クリニック理事長



皆さんこんにちは。

高石市との取り組みの続報です。今回はフェーズ3（大学との共同研究編）になります。

1年目の実績を元に市内事業者に自立支援勉強会を複数回実施し着々と普及活動を継続しており、その報告会を2月に行いました。そして大学との共同研究の概要も決定いたしましたので本日はお知らせいたします。

共同研究は、【大阪経済大学】×【関西医科大学】×【高石市】×【ポラリス】で実施し、ポラリスでの介護度改善結果が、介護給付費のみならず医療費削減に寄与しているかを抽出し、介護度改善インセンティブ制度を導入した際の費用対効果の検証を行います。

研究報告は、2025年2月の成果発表会にて行う予定です。その後高石市に対して具体的な介護度改善インセンティブ制度の政策提言を行い、第4フェーズとして、【高石市モデルの確立】を実現したいと考えています。どの程度の研究結果がでるか今から楽しみでなりません。次回は研究結果の進捗についてお話できと思いますので、皆様もぜひご期待ください。

ちなみにこの取り組みの今後の展望としては、フェーズ5（高石モデルを他市町村に横展開）させ、フェーズ6（国全体の統一したインセンティブ制度の確立）までを考えていますので、ぜひ今後とも末永くお付き合いください。



PICK UP

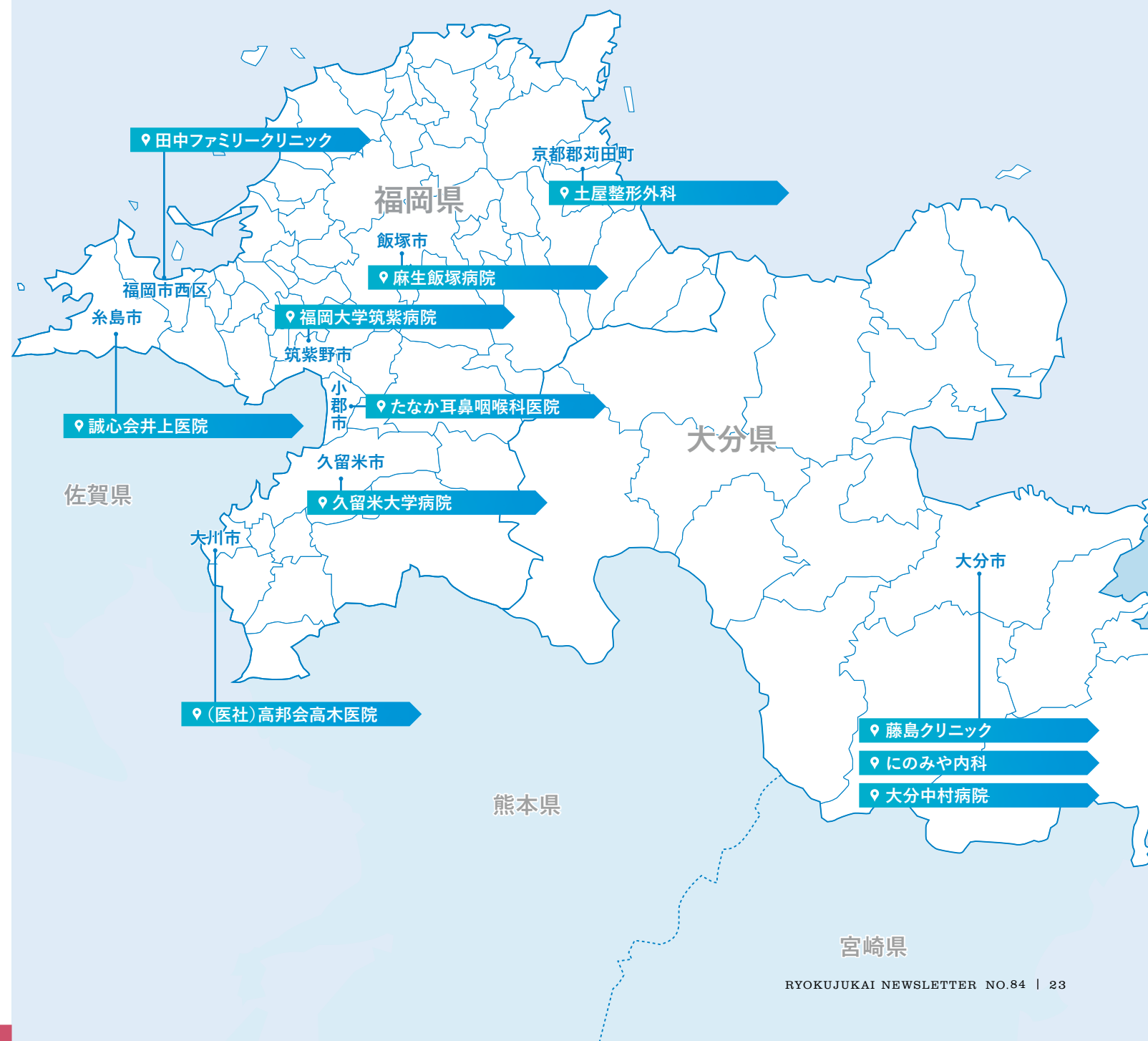
地域医療を担う同窓生

第3回

福岡県・大分県

国内外問わず、さまざまな地域の医療に貢献している同窓生。毎号ひとつの地域に焦点をあてて、活躍の姿と声を紹介しします。

九州の県では最も人口が多い福岡県と、別府や湯布院といった温泉地で知られる大分県。九州地方で緑樹会の支部があるのは現在この2県です。今号では、この地域で活躍されている同窓生を紹介します。



福岡県・大分県の医療を担う 皆さんに伺いました

- 1 現在の所属医療機関 2 標榜科または専門領域
3 同じ施設に所属している同窓生がいる場合は名前を記載してください 4 母校・同窓生に一言



藤島 宣彦 (昭和56年)
大分県大分市

1 藤島クリニック 2 外科、整形外科、内科 4 私は卒業後帰郷し、県立病院で内科を研修後大分医科大学の外科に入局し消化器外科を専攻。その後、1990年に兵庫医大に戻り整形外科に二年半お世話になり、さらに大学院（第一病理）にて学位を取得。1997年に大分医大外科に帰局。その後、大分市内で開業いたしました。このように、私は兵庫医大に二度、トータル十二年半お世話になりました。母校とはかくも優しく、温かく私を医師として一人前に育ててくれました。またお世話になった先輩、同級生、後輩の先生方には心から感謝しています。



田中 久志 (昭和58年)
福岡県小郡市

1 たなか耳鼻咽喉科医院 2 耳鼻咽喉科 4 福岡緑樹会（緑樹会福岡支部）の会長を務めております。福岡支部は大分支部（緑分会）藤島先生の御指導の下、2017年10月21日に発足しました。福岡県内在住の同窓生の皆様の御参加を心よりお待ち申し上げます。



二宮 浩司 (昭和60年)
大分県大分市

1 にのみや内科 2 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科 4 昭和60年卒業後、兵庫医大第3内科に入局し、大学で研修後、出向先病院で勤務したのち大学に戻り、呼吸器内科医として勤務していました。平成11年大分に戻り現在に至っております。緑樹会大分県支部の同窓生で定期的に情報交換を行い、特に福岡県の先生とは、合同で同窓会を行ったりしています。



土屋 隆之 (平成1年)
福岡県京都郡苅田町

1 土屋整形外科 2 整形外科 4 緑樹会福岡支部の幹事をしています。現在、九州支部の設立を計画しています。九州、山口の医療機関に就職されましたらご連絡いただけますようお願いします。
▶メール：tuchiyaseikei@blue.ocn.ne.jp



井上 健 (平成4年)
福岡県糸島市

1 誠心会 井上病院 2 消化器外科 4 卒業後は九州大学第一外科に入局し平成15年から実家の病院に戻り現在に至り、地域医療を守るべく何とかやっています。最近は当院が所在する糸島が観光地として多くの方々が来られるようになりました。皆さん、遊びに来てください。



田中 亮 (平成15年)
福岡県福岡市西区

1 田中ファミリークリニック 2 内科、外科 4 卒業後、地元で約20年救急医として働き、現在はクリニックを開業しています。遠く離れてはいますが、元気で頑張っています！兵庫医大で過ごした日々は一生の宝物です。福岡市は美味しい料理、豊かな自然、適度な都会が揃っています。近くにお越しの際はおもてなししますので、是非ご連絡ください！



南 美和子 (平成25年)
福岡県大川市

1 高邦会 高木病院 2 予防医学科、内科 4 現在私は福岡県・高木病院を中心に健診・内科診療にあたる日々を送っております。大学にいたころに目指していた医師像とは少し異なりますが、忙しくさせて頂き日々感謝です。少しでも地域の医療を支えるべく、これからも頑張ります。



平田 英生 (平成28年)
福岡県久留米市

1 久留米大学病院 2 腎臓内科 4 来年から実家の広島医院へ帰ります。九州では本当にいろいろなOB、OGの先生方にお世話になりました。本当にありがとうございました。来年からは地域医療現場で粉骨砕身の思いで働きます。広島先生方、よろしくお願いします。



松成 修 (平成15年)
大分県大分市

1 社会医療法人恵愛会 大分中村病院 2 消化器内科 4 平成15年に卒業後、大分医科大学第二内科へ入局し、消化器内科医となりました。消化器系の専門医を取得し、その後、大分大学高度救命救急センターで救急専門医を取得しました。今は地域の2次救急病院で、消化器内科医＋救急担当医として頑張ってます！大分大学の大学院を修了したので、最終学歴は大分大学ですが、私の中での最終学歴は‘兵庫医大’です。大分にお越しの際は、是非お声掛けください！大分のおいしい料理とお酒でおもてなしさせていただきます！



原田 久也 (平成28年)
福岡県筑紫野市

1 福岡大学筑紫病院 2 消化器内科 3 森澤裕介（研修医） 4 実家の近くの福岡大学筑紫病院消化器内科に入局し、入局後、客観的できれいな内視鏡画像を撮影することを叩き込まれました。今後、その経験を活かしていきたいと思っています。興味があれば是非いらしてください。



小畑 有未 (令和4年)
福岡県飯塚市

1 麻生飯塚病院 2 呼吸器内科 4 大分で研修医を終え4月より福岡県で内科専攻医としてスタートしました。医師としてスタートしたばかり、様々な経験をして母校の名に恥じぬような医師になります。同窓生の先生方どうぞよろしくお願い申し上げます。

〔徳島支部〕「緑徳会」を開設しました！

保岡 宏彰（平成9年卒業） | 保岡クリニック論田病院

拝啓 深緑の候、兵庫医科大学同門会員の皆様におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。昨年11月15日、徳島県の同門会支部立ち上げ式を、同窓会会長である石蔵礼一先生ご同席のもと、県内でご活躍されている兵医卒の先生方と共に、無事に執り行うことが出来ました。令和6年4月1日付で兵庫医科大学同門会徳島県支部（通称：緑徳会）を開設致しましたことを正式にご報告します。

この度の支部立ち上げにつきましては、県内でご勤務されている兵医卒の医師が増えたこと、また、同窓生同士が気軽に相談できる場所が必要と感じたからです。昨年、支部開設を盛隆興（S 57卒）先生にご承認いただいた後、県内同窓生のご賛同並びに有志のご協力もあり、順調に開設準備を進めることが出来ました。この場を用いまして御礼申し上げます。

緑徳会はこれからも同窓生との親睦を図り、共に地域医療

の貢献に取り組んで参ります。
皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



〔神戸支部〕令和5年12月 神戸緑樹会

清水 聡一郎（平成2年卒業） | 神戸緑樹会

神戸神仙閣にて第3回総会、懇親会を開催致しました。前回は2019年でしたがご存知のようにCovid19のために延期に延期を重ね、実に4年ぶりの開催となり32名の参加を頂きました（会員数約215名）。大城理事長、そして令和5年4月から新しく学長になられた鈴木先生をゲストでお迎えし、また緑樹会会長の石蔵先生にも今回初参加頂きました。

久しぶりの開催で再会を喜ぶ声もあり、やはり開催できて良かったと思います。久しぶりといえば2023年は地元阪神タイガースが18年ぶりのリーグ優勝、そして38年ぶりの日本一をちょうど1ヶ月前に果たしており、まだその余韻は残っており他の会場からは六甲おろしの大合唱が聞こえてきていました。

また今後も若い先生方が世話人として手伝ってくれるそうでこの会を継続していけたらと思います。



第3回総会

〔京都支部〕第13回京都緑樹会総会

繁本 俊哉（平成5年卒業） | 京都緑樹会 庶務

令和5年12月16日（土）、4年ぶりの京都緑樹会を、緑樹会会長 石蔵礼一先生をお招きし16名の先生方が参加、大正7年創業京都の老舗日本料理店「畑かく」において開催いたしました。

初めに京都緑樹会会長、内田寛治先生よりご挨拶があり続いて石蔵礼一先生より緑樹会や大学、大学病院の近況についてご報告を賜りました。

引き続き京都府医師会会長、松井道宣先生のご挨拶、乾杯の音頭で開宴、名物「ぼたん鍋」に舌鼓を打ちながら大いに盛り上がり二次会は祇園街へ移動、芸妓さんらも加わり楽しい夜は更けていきました。

京都緑樹会では年1回こうして集まり、会員相互の交流を図っています。

京都にお住まいの先生方、ご勤務の先生方ら多くの先生方のご参加をお待ちしております。



参加者：安田美希生（S.54）、東前隆司（S.55）、杉本英造（S.56）、新井一樹（S.57）、内田寛治（S.58）松井道宣（S.58）、西垣哲哉（S.60）、林誠（S.62）、中江龍仁（S.63）、岩崎新（H.3）、水野朝之（H.4）、繁本俊哉（H.5）、柴田勝博（H.7）、若江武（H.9）、清水史記（H.13） 敬称略

〔大分支部〕大分支部総会

藤島 宣彦（昭和56年卒業） | 藤島クリニック院長、緑分会会長

令和5年12月23日に大分市ふく亭本店にて開催いたしました。実は令和2年の秋に九州・沖縄同窓会を別府で行う予定でしたが、新型コロナ蔓延のために中止、4年ぶりの支部会開催となりました。

当日は、異例の寒波襲来で悪天候の中、石蔵礼一会長が来分し、またオブザーバーとして福岡支部より田中久志先生と土屋隆之先生、南美和子先生にご参加いただきました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

大分からは、二宮浩司先生、東喬太先生、松成修先生、さらに、何松健先生（令和2年卒、大分大学循環器内科）、川本聡先生（令和2年卒、大分大学耳鼻咽喉科）、佐藤実歩先生（令和3年卒、大分大学麻酔科）、辛島誠伸先生（令和4年卒、大分大学消化器内科）、小畑有未先生（令和4年卒、飯塚麻生病院呼吸器内科）と若い先生方も参加致しました。残念な

がら臼杵市医師会長として活躍中の奥津明先生は体調不良のために参加できませんでした。ふぐ料理、ひれ酒に舌鼓をうちながら同じ学び舎で学んだという縁で世代を超えて語らい、楽しい時間を過ごすことができ、改めて同窓会の良さを感じました。令和6年11月23日には、沖縄・九州同窓会を福岡支部主催で博多にて開催することを決定し、散会となりました。



〔伊丹支部〕第4回緑伊会総会報告

山本 裕信（平成3年卒業） ｜ やまもとクリニック泌尿器科 院長

令和6年2月17日（土）18時より阪急塚口駅から歩いてすぐのレストランHerdy'sで第4回緑伊会（緑樹会伊丹支部）総会が開催されました。

出席者は吉村史郎（S54）、森脇優司（S54）、荘司康嗣（S57）、杉澤栄（S61）、南祥一郎（S61）、青木英治（S63）、小坂正（H2）、前田信之（H3）、山本裕信（H3）、林伸樹（H4）、森本真史（H5）、濱保江（H6）、片岡保朗（H7）、古田穰（H12）、赤神隆文（H13）、富永恒平（H17）、武田梨里（H19）、濱田三和男（H22）、林果穂（R4）、石藏礼一（S57:緑樹会会長）の各先生方でした。

はじめに吉村緑伊会会長より開会の挨拶があり、コロナ禍により4年ぶりとなった総会の開催を喜び、会員が集まることであらためて緑伊会の絆を感じられたとのお話でした。続いて

石藏緑樹会会長より建て替えが進む大学の状況、現在の学生さんの様子などをお話いただきました。会員動向、会計報告を経て懇親会に移りました。

荘司先生の乾杯の音頭で開宴し会員各々の近況報告を挟みながら旧交を温め、学年の上下を超えて飲み語りました。久しぶりに集まれたこともあり、学生時代の思い出や現在の仕事の話でたいへん盛り上がりました。1年後の再会を約束し、お開きとなりました。

世話人の不手際で全員写真を撮り忘れてしまい、掲載できないことを反省しております。

今回の開催に当たり緑樹会からご支援いただき、ありがとうございました。

〔宝塚支部〕第6回宝樹会 宝樹会総会2024

竹中 雅彦（昭和63年卒業） ｜ 宝樹会事務局長

2024年（令和6年）3月16日、島家にて宝樹会（緑樹会宝塚支部）総会を開きました。総会に続いて、宝塚市立病院整形外科森山徳秀先生（昭和63年卒）を演者として、「アスリーの脊椎障害」についてご講演いただきました。森山先生のラクビー愛のすごさを感じ、琴欧洲関とのツーショットは羨ましい限りでした。続いて情報交換会には前年度倍増20名の先生方に参加して頂き、ありがとうございました。石藏礼一会長からは大学の近況報告を頂き、今回初参加の岡田敏弘先生（昭和63年卒）、村田尚之先生（平成4年卒）、尾迫貴章先生（平成10年卒）、飛び入りで澤田悠先生（平成20年卒）の自己紹介を頂きました。参加して頂いた先生方の近況報告は尺がとれず、時間制限にして申し訳ありませんでした。

第7回は2025年3月15日（土）17:30～、島家の予定です。飛び入り参加も大丈夫ですので、宝樹会事務局までご連絡下さい。宜しく願い申し上げます。



後列左から竹中雅彦、澤田悠、宮本俊明、宋秀男、古倉浩次、石本恭子、尾迫貴章
中列左から梅村仁、岡田敏弘、森山徳秀、竹原満登里、三村みどり、林崎緑、野出美知子
前列左から村田尚之、澤田幸男、大門勝史、石藏礼一、石本栄作、中川知美（敬称略）

兵庫医大ほぼ11期生同窓会

吉岡 優（昭和63年卒業） ｜ （医）優会よしおかクリニック泌尿器科 院長

2024年2月11日ホテル阪急インターナショナルにて、S.63年に卒業して以来初めての同窓会を行いました。

東は名古屋から、北は福井から、西は広島から、南は香川、沖縄から旧友を温めるべく懐かしい総勢48人が集まりました。36年前の卒業式謝恩会と同じスキー部の黒田均先生・善本哲郎先生が司会進行を始めると還暦過ぎの48人が36年前にタイ



ムスリップ!最高に懐かしく楽しい3時間を過ごしました。同窓会の開催はコロナ禍前から企画していたのですが、今回やっと開催できて本当に良かったです。皆んなそれぞれそれなりに苦勞して立派に人生を謳歌していました。再会を誓って無事終宴致しました。

第4期生同窓会 開催のご案内

日 時 2024年**8月24日(土)**17時頃から開始
会 場 ホテルヒューイット甲子園
会 費 12,000～15,000円程度

兵庫医科大学 廣田医学部長、池内病院長、石藏緑樹会会長の講演を予定しています。

詳細は確定しましたら改めてご案内いたします。皆さまのご参加をお待ちしています。

幹事：澤田幸男、尾崎孝平

第1回 兵庫医科大学ほぼ20期生同窓会 開催のご案内

日 時 2024年**11月3日(日)**18:00～
会 場 ヒルトン大阪
会 費 20,000円

皆さんお元気にご活躍のことと思います。卒業して四半世紀以上が経ちました。多くの卒業生たちが同窓会を開催している中、そろそろ私たちも、との声が多くあがりました。そこで緑樹会学年代表を中心に、同窓会実行委員を組織し、この度上記日程で開催する運びとなりました。久しぶりに皆で集まり、昔話に花を咲かせませんか?詳細は決まっていますが、ヒルトン近くで二次会も予定します。皆さまのご参加をお待ちしています!

ほぼ20期生同窓会実行委員
笠間周平、森口林太郎、森正、黒岡浩子、
安田（中野）貴恵、中山（前田）真美

[参加申込みはこちら▶](#)



競技スキー部50周年記念パーティー

田村 和朗（昭和53年卒業） | 桜橋渡辺病院 遺伝子診療センター、附属駅前第3ビル診療所



2023.11.18.集合写真

2023年11月18日、ホテル阪急インターナショナルにおいて顧問の吉村紳一先生（脳神経外科主任教授）をお迎えし、OB/OG（1～45期、45名）と現役部員（24名）の70名が一堂に会し50周年記念パーティーを催しました。世話人の高橋良典先生（17期生）、OB会長の波多野 希先生（8期生）、現役部員が協力して記念パーティーに相応しい盛大かつ心温まる会を開催してくれました。これまで西医体など様々な大会に出場し優勝者や国体出場者など多くの部員を輩出し活発に活動してきました。加えて、2024年3月の西医体（菅平高原）には顧問の吉村紳一先生とOBの桧山永得先生（25期生）が駆けつけ応援するなど強い団結力と仲の良さが特徴です。OB/OG会としては今後も現役部員を盛り立てていきたいと考えています。



2023.11.18.
顧問.吉村紳一先生



2023.11.18.
世話人.高橋良典先生



2023.11.18.
OB会長.波多野希先生



2023.11.18.パーティー後のOB6名



2024.3.菅平高原.現役部員.吉村先生.桧山永得先生



2024.3.現役部員5名

体育会系硬式庭球部 創立50周年記念式典を終えて

助永 憲比古（平成20年卒業） | すけながペインクリニック 院長

令和6年3月9日、ホテルヒューイット甲子園にて創立50周年記念式典を開催し、来賓、OBOG、学生合わせ91名の皆様に参加いただき盛大な式典となりました。来賓、1期生の挨拶、硬式庭球部恒例の「出身一」など、昔と違い一気飲みのコールなどは出来ませんが、昔話にも花が咲き、コロナ禍で関係が希薄になっていた仲間が再会し、交流を深める貴重なひと

きとなりました。兵庫医大卒、特に同じ部活出身というのは、家族のような何か特別な仲間ですので、私自身も上下幅広い年代を通して仕事、趣味などを共有できる一生の宝になっています。伝統を尊重しつつも時代に対応し、仲間がどんどん増えて、OBOG会が発展していくことを祈念しております。



第14回 日本炎症性腸疾患学会学術集会

池内 浩基（兵庫医科大学病院 病院長）



2023年12月1, 2日の2日間第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会をシーサイドホテル舞子ピラ神戸で開催させていただきました。今回から完全現地開催としましたが、約1,000名の先生方にご来場いただき活気に満ちた学会を行うことができました。

消化器系の全国学会は神戸開催の場合、ほとんどがポートピアで行われるため、今回は少しこだわり、舞子ピラ神戸としました。当地は旧有栖川宮家の別邸のあったところで、現在は明石海峡大橋、明石海峡と淡路島を眼下に見ることができ、非常に風光明媚で高評価をいただきました。

学会のタイトルは内科と外科の架け橋-最適なIBD治療の連携を目指して-としました。IBDの患者数は増加傾向で、内科的治療薬の進歩は著しいものがありますが、内科治療にこだわりすぎたために、予後不良の転機をたどった症例も存在します。このような症例をなくするために、活発な議論がなされたと思っています。

兵庫医科大学は内科の下山孝教授、外科の宇都宮譲二教授以来、IBDの専門病院として活動してきました。現在も潰瘍性大腸炎とクローン病の治療患者数は全国1位を維持し続けています。この伝統は今後とも引きついでいきたいと思っています。

最後に、今回の学会も緑樹会より援助をいただきました。ありがとうございます。今後とも緑樹会会員の先生方の益々のご活躍を祈念しております。私事で恐縮ですが、今年の4月より兵庫医科大学病院の病院長を拝命しております。今後とも会員の先生方のご支援をいただけますようお願い申し上げます。



第46回「日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会」開催のご案内

「どうするネット社会の性教育～SNSの功罪を考える～」



日 時 2024年7月28日(日)9:00～16:00 **一部オンデマンド配信を実施**
会 場 ホテル日航奈良 奈良市三条本町8-1
会 長 赤崎 正佳（奈良県産婦人科医会 会長）
U R L <https://seisemi46.eventworks.jp/>

第46回日本産婦人科医会性教育指導セミナーを2024年7月28日（日）に開催させていただくことになりました。

近年、インターネットやSNSの普及により情報検索・発信、また様々な活動やサービスがオンラインにて多数行われ、日常生活において必要不可欠となっています。その一方で性的な内容の情報も簡単に入手できるようになり、その弊害が問題化されています。情報の取得は簡単にできるものの、必ずしもすべての情報が正確とはいえず、却って不安や混乱をもたらしていることも少なくありません。

本セミナーでは医療を含めたネット社会における性・性教育に関する問題について、幅広い世代・社会的役割の異なる方々が一緒に考える機会にしたいと考えております。

「国のまほろば大和」の地より、みんなで向き合い見つめなおし次世代につなげ、産婦人科医療の発展にも寄与できればと考えております。現地とオンデマンド配信にて開催いたしますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。



第31回全国私立医科大学同窓会連絡会・全国会

緑樹会理事 中山 真美（平成9年卒業）

獨協医科大学・同窓会主管にて令和5年11月25日（土）の17時から帝国ホテルにおいて第31回全国私立医科大学同窓会連絡会・全国会が開催されました。全国の29の同窓会から計129名の参加がありました。緑樹会からは石蔵礼一会長、大江与喜子副会長、中山の3名が参加致しました。

まず主幹の獨協医科大学・同窓会の千木良会長から挨拶があり、続いて東京慈恵会医科大学同窓会の武石昌則会長から本年行われた第52回全国私立医科大学同窓会連絡会・東部会の報告、久留米医科大学同窓会の山本宏一総務委員長から第30回全国私立医科大学同窓会連絡会・西部会の報告、愛知医科大学同窓会・愛橘会の福澤嘉孝理事長からは昨年の第30回全国私立医科大学同窓会連絡会・全国会の報告が行われました。その後、獨協医科大学同窓会の山岸秀嗣常任委員より、本全国会に先立って行われた同窓会運営に関するアンケート結果の集計結果が報告されました。その中で、55.6%の同窓会が41個以上の支部会を有している、63%の支部会が60%以上の会費納入率を維持している、等が印象に残

りました。我々緑樹会もさらに活動を活発化し、母校への後援活動や会員相互の交流活動等を充実させていこう、と石蔵会長、大江副会長ともども士気が高まりました。引き続き、特別講演には学校法人獨協学園の猪口雄二理事長がご登壇されました。猪口理事長は日本医師会副会長でもあり、「2024年からの医療体制」と題し、介護医療同時改定に向けての進捗状況を分かりやすくご講演され、今後さらに加速する高齢化・人口減少に向けての日本の医療介護供給体制の在り方を考える機会となりました。さらに来年の主管である北里大学医学部同窓会の永岡隆会長より、令和6年11月30日に箱根の温泉1泊2日で連絡会開催を予定していると挨拶がありました。その後の懇親会では、コロナ禍以降4年ぶりの開催を皆で喜びながら有意義な情報交換が出来ました。



クラウドファンディングの結果報告とお礼

クラウドファンディング（お年寄りの健康寿命を延ばしたい|血液中の長寿因子の探索にご支援を）の結果報告とお礼

辻 翔太郎（平成23年卒業） | 兵庫医科大学医学部 整形外科



平成23年卒の辻翔太郎です。
 この度は前号にて協力をお願いをさせていただきましたクラウドファンディングの結果報告とお礼を述べさせていただきます。
 2023年11月27日から兵庫医科大学 総合診療内科学教室と整形外科教室（骨粗鬆症班）等のチームで開始したクラウドファンディングへの挑戦は2024年1月19日をもって大成功のうちに終了となりました。結果は第1目標の300万円をはるかに上回る、914万円という大きな金額をご支援頂きました。本プロジェクトは当初、不安いっぱい船出であり、緑樹会の先生方への協力依頼を会長である石蔵先生にお願いしたところ快く了承して頂き、会報掲載と緑樹会メールにて協力のよびかけを致しました。そして開始直後から、緑樹会の多くの先生方に激励の言葉と多くのご支援を賜り、みるみる支援金額が増え

ていき、スタッフ一同、驚きと喜び、そして感動と使命が心に刻まれる54日間を過ごしました。今回得たこのような素晴らしい経験を緑樹会の中で活かす必要があると私自身感じており、今後クラウドファンディングを開始される緑樹会の先生方がいらっしゃれば微力ではありますがサポートしていきたいと考えております。本当にありがとうございました。これからも宜しくご指導ご鞭撻ください。



丹波篠山コホート研究（FESTA研究）プロジェクトメンバー

学生会員の皆さんへ

医学部新1年生の皆さん、入学おめでとうございます。
兵庫医大は1972年に開学以来、君たちは53期生となります。同窓会である緑樹会の会員は原則、卒業生のみでしたが、今年より学生諸君も会員として迎えることになりました。兵庫医大生はとても優しく(患者さんにも!)、先輩や後輩とも仲良く和気あいあいとしています。学生時代は知らなくても、同じ卒業生であれば、すぐに「繋がれる」・「助け合える」そんな仲間が待っています。



2024年度兵庫医科大学入学式
祝辞を贈られる緑樹会副会長 大江与喜子先生



右：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 都築建三先生

私事ではありますが、この度、人生初めての手術を受けました。執刀いただいた都築先生、担当して下さった廣瀬先生、村田先生、麻酔をかけてくださった古畑先生、お見舞いに来て下さった美内先生、みんな卒業生でした。卒業生に囲まれ、一切の不安なく治療を受けることができて本当に幸せでした。

緑樹会は今までも様々な学生支援を行っていましたが、より近い存在として学生諸君を迎えられる事を嬉しく思います。私たちは学生諸君の味方です!

緑樹会常任理事 **橋本 昌樹** (第28期生)

第118回医師国家試験の結果

**第118回医師国家試験において
本学は受験者総数114名中、合格者は113名
合格率は99.1%でした。
医師として新たな門出を迎えた合格者の皆さま
おめでとうございます。**

	受験者数	合格者数	合格率
新卒者	111名	110名	99.1%
既卒者	3名	3名	100.0%
総数	114名	113名	99.1%

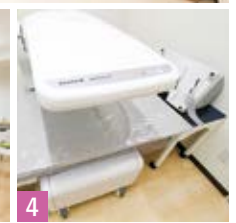
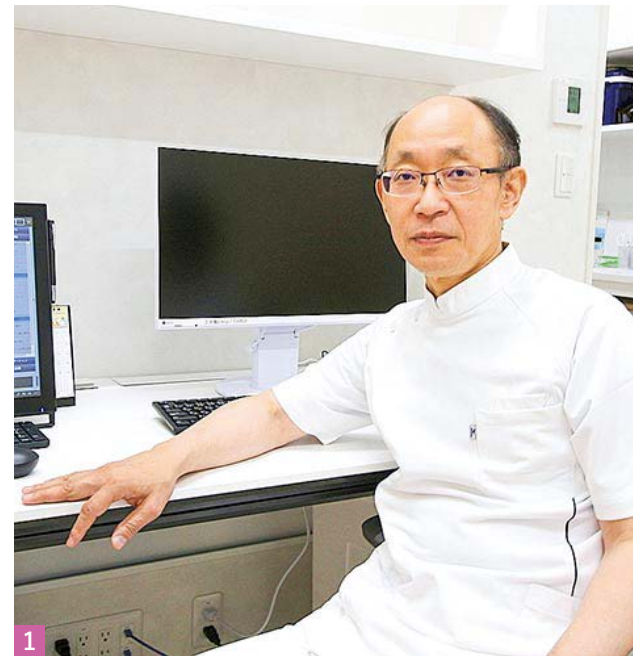
総合型選抜「卒業生子女枠」

**2023年度より、兵庫医科大学医学部入学試験に
卒業生子女枠が導入されました。
2024年度の結果は出願者34名、合格者3名でした。**

- 医学部総合型選抜「卒業生子女枠」要項(注) 2024年度の内容です
募集人員：3名
出願資格：
1. 日本国内の高等学校もしくは中等教育学校の全日制的課程を2023年3月に卒業した者、又は2024年3月卒業見込みの者(現役生)
2. 合格した場合に入学を確約できる者
3. 両親および祖父母のうちいずれかが兵庫医科大学医学部の卒業生である者
■緑樹会推薦条件
・緑樹会正会員
・緑樹会の趣旨を理解し賛同する者
・過去10年間の緑樹会会費を完納し、かつ今後も遅滞なく会費納入を確約する者

病院探訪

やまなか整形外科クリニック



- 1 地域の方々の運動器を中心とした健康管理の維持に注力されている山中一浩先生
2 待合スペースがゆったりと広く、落ち着いた雰囲気のクリニック
3 様々な種類の機器を有するリハビリ室
4 最新鋭の骨密度測定器

クリニック探訪企画の第2弾は、西宮市の阪急夙川駅すぐの「やまなか整形外科クリニック」です。院長の山中一博先生(平成2年卒業)に、緑樹会広報委員の橋本がお話を伺いました。

橋本：今までの簡単なご経歴を教えてください。

山中：平成2年に卒業後、兵庫医大の整形外科教室に入局しました。国立神戸病院(現神戸医療センター)や国立療養所篠山病院(現ささやま医療センター)などで研鑽を積んだ後、脊椎外科グループの一員として帰学しました。しばらく大学で臨床経験を積み、宝塚市のこだま病院や堺市の田仲北野田病院などではオールラウンドに整形外科診療を行いました。この度、縁あって2023年10月より母校がある西宮市で開業する運びとなりました。

橋本：やまなか整形外科クリニックの特徴を教えてください。
山中：当クリニックの使命は、クリニック近傍にお住まいのご高齢者の健康維持に貢献することだと考えております。私は整形外科医ですので、運動器を中心とした四肢や体幹の活動性の維持やその啓蒙活動に力を入れています。特にロコモティブシンドロームでの日常生活動作の低下を予防すべく、当クリニックのPTによる健康体操教室を行っており地域の方々に好評を得ています。

橋本：ありがとうございました!

同窓生へのメッセージ



山中 一浩 (平成2年卒業)
やまなか整形外科クリニック 院長

本学卒業生の特徴として、患者さんに優しいことが挙げられます。私も諸先輩方と同様に、患者さんの側面にたって親身に診療していきたいと思いますし、実際、開業してみると病院勤務時代よりも実践できているように思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Info

やまなか整形外科クリニック

診療科目 整形外科・リハビリテーション科
所在地 西宮市羽衣町7-30
夙川駅前イズミメディカルモール2F
TEL 0798-33-1166
URL <https://yamanaka-seikei.com/>



緑樹会からのお知らせ

⑤ 令和6年度緑樹会代議員会（第47回総会）・懇親会のお知らせ

令和6年度の緑樹会代議員会（第47回総会）を下記の要領にて開催いたします。

また、5年ぶりに懇親会を母校学生食堂にて開催いたします。会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

1日時 令和6年7月13日（土） 代議員会：16時00分～

講 演：16時30分～

懇 親 会：18時00分～

2場所 兵庫医科大学 第2会議室（10号館3F）

懇親会：兵庫医科大学 学生食堂（教育研究棟6F） ※詳細につきましては、緑樹会ホームページでご案内いたします。

3問い合わせ先 緑樹会事務局 TEL：0798-45-6448 FAX：0798-45-6449

Email：ryokuju@hyo-med.ac.jp

緑樹会ホームページは
こちらからご覧ください



⑥ 兵庫医科大学病院産業医学研修会開催のお知らせ

2024年度兵庫医科大学病院産業医学研修会を、兵庫医科大学医師会との共催にて開催いたします。

1日時 令和6年7月13日（土）14時00分

2場所 兵庫医科大学病院

3問い合わせ先 兵庫医科大学医師会 TEL：0798-45-6344 FAX：0798-45-6608

E-mail：kanrika@hyo-med.ac.jp

⑦ 令和7年版緑樹会会員名簿発行のお知らせ

このたび、令和7年版の緑樹会会員名簿を発行する運びとなりました。

会員名簿の発行は、同窓会活動の目的である「会員相互の親睦を保ち、医学をもって社会に貢献する」ための基盤となる事業と位置づけて継続して行っております。会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

会員の皆さまには、現在の登録内容ならびに、名簿掲載情報の確認を行っていただくための調査票を令和6年秋頃に郵送する予定ですので、調査票のご返信にご協力をお願いいたします。

なお、名簿の発送等に関する詳細につきましては、緑樹会ホームページでご案内いたします。

掲 示 板

⑧ 医師募集広告のご案内

緑樹会では卒業生のキャリア支援を目的として会員間の求人情報を緑樹会ホームページに掲載します。

医師募集広告をご検討の方は緑樹会事務局までお問い合わせください。

事務局より

① 年会費納入のお願い

年会費は1万円です。緑樹会は皆さまの年会費を基に維持運営されています。

会費納入にご理解とご協力をお願いします。

※振込み払いの方には、令和6年分会費納付書を9月頃に郵送予定です。

納付書が届きましたらお手続をお願いいたします。

◆ 会費納入方法

- 払込票払い（コンビニエンスストア・郵便局でご利用ください）
- 口座自動振替（申込書をお送りしますので事務局にご連絡ください）
- 銀行振込：三井住友銀行 西宮支店（普）8895724
一般社団法人兵庫医科大学同窓会
- クレジット決済（QRコードから専用画面にアクセスしてお手続きください）
<https://ssl.f-regi.com/ep/ryokujukai>

年会費
クレジット
決済



② 議事録

定期理事会議事録は緑樹会ホームページに公開しています。

◆ URL

<https://www.hyo-med.ac.jp/department/ryokujukai/>

詳細は
こちらから
ご覧ください



③ 住所、勤務先変更届提出のお願い

現住所、勤務先等の変更はお早めにお手続をお願いします。

◆ URL

https://www.hyo-med.ac.jp/department/ryokujukai/ido_form/

詳細は
こちらから
ご覧ください



④ 現況

緑樹会会員数 4,696名（正会員・準会員）令和6年4月1日現在

編集長 コラム

橋本 昌樹（平成17年卒業）
緑樹会常任理事

会報誌の発行が6月/12月となり、5月下旬に筆を執っています。5月は新緑の季節です。青々と生い茂る新芽に光が反射してキラキラと輝き、心が高揚します。紅葉や銀杏並木も綺麗ですが、いずれも散りゆくもの。一方、新緑はまさにこれから。同窓会の名称である「緑樹」はまさに新緑をイメージするもので、兵庫医大もまさにこれから!今号も多くの寄稿を頂きました。会報誌が、同窓生同志の交流や、母校を想うきっかけとなり、母校の発展に寄与できれば望外の喜びです。

編集後記

笠間 周平（平成10年卒業）
緑樹会理事

COVID-19も落ち着き、クラブのOB会や同期会の記事が増えてまいりました。そんな折、私の学年である20期生も初めての同窓会を開くことになりました。学生当時は多方面から「まとまりがない学年」と言われていたことを思い出し、参加人数が少なかったらどうしようと心配していますが、もし少なかったとしても多様性を重視する最先端の学年だなぁと前向きに考えることにします。そして数十人規模ではない小さな集まりであっても本紙の記事としては大歓迎ですので、会員の皆さまからのご寄稿を心よりお待ちしております。

緑樹会支部
はこちらから
ご覧ください





送迎不要！
幼児向け習い事教室

ユニコーンキッズ 芦屋



より良い明日へ

バイエルはイノベーションや治療法の提供を通じて、患者さんのための治療に変革をもたらす持続可能な取り組みを推進しています。私たちの目的“Science for a better life”に沿って、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Science for a better life



Medtronic
LigaSure™ XP
Maryland

LigaSure™は
“次のステージ”へ

販売名: Valleylab FT101344 “フットカーム” 医療機器承認番号: 22800BZX00157000
販売名: ForceTread1244 “フットカーム” 医療機器承認番号: 21900BZX00853000
使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子書文をご参照ください。
© 2024 Medtronic, Medtronic, Medtronic, Medtronic ロゴマーク及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの登録商標です。
S-A1505

コヴィディエンジャパン株式会社
Tel: 0120-998-971
medtronic.co.jp



ENSEAL® X1
Curved Jaw Tissue Sealer

Capability of Kelly forceps
日本人外科医が求める剥離操作を追求した精密な設計と Adaptive Tissue Technology が ストレスの少ない外科手術をサポートします。

ETHICON
PART OF THE Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES

製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカル カンパニー
〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号
高度管理医療機器 販売名: エンシール® X1 ディスユーザー 163607-201224
承認番号: 30200BZX00391000 ©J&J 2021



創造で、想像を超える。

中外製薬
ロシュ グループ



緑樹会ロゴ入り
オリジナルスクラブ
大好評販売中！

ドクターを支えます
1969年設立から55周年

保険医協会

保険医協会とは、開業医の生活と権利を守り、患者・住民とともに地域医療の充実・向上をめざす医師・歯科医師の団体です。
全国で10万人、兵庫県下で7700人の医師・歯科医師が加入しています。

ドクターを支える保険医協会の5つの仕事

医院の継承、廃院の相談もお気軽に。

- 1 保険診療、審査・指導対策の強い味方
- 2 新規開業や、医院経営で困ったときの相談窓口
- 3 医師・歯科医師のための共済制度で安心
- 4 多彩な臨床研究会
- 5 月3回発行の新聞で最新の医療情報を提供

ドクターに最適を提供します

このような方にオススメです！
協会の共済制度

資産運用は 利率と安定性と 使い勝手のよさだな	保険医 年金	積立年金 Defl (デフエル)
死亡保障は 安いほどいい	協会グループ 保険	新グループ 保険
病気やケガで 休んだ時の 備えがない	休業保障 制度	所得補償 保険
医事紛争の 備えは必須	医師賠償 責任保険	
損害保険も 安くしたい	団体割引の 自動車保険、 火災保険	
サイバー プロテクター 保険も	医療保険、 ガン保険	

選んで
よかった！

スタッフ
向け
研修も充実

医療安全管理・院内感染対策研修会
職員接遇研修会 保険請求事務講習会
Q初級歯科助手講座

ぜひ
ご入会
ください

TEL.078-393-1817

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
TEL:078-393-1801 FAX:078-393-1802
E-mail:hyogo-hok@doc-net.or.jp

兵庫県保険医協会
Hyogo Medical Practitioners Association

ウェブサイトからも資料請求いただけます
<http://www.hhk.jp/>





1号館と8号館の間に阪神バスの停留所「兵庫医科大学病院前」ができました



一般社団法人 兵庫医科大学同窓会

緑樹会会報 No.84

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

TEL:0798-45-6448 FAX:0798-45-6449 MAIL:ryokuju@hyo-med.ac.jp

発行日/2024年6月1日 発行/兵庫医科大学同窓会 緑樹会 発行人/石蔵 礼一